萬壽山 1

萬壽山頂の碑、乾隆帝御筆

新秋である。北京の秋は眞珠のやう。澄明な外光を切つて萬壽山行と洒落れてみるのもよからう。北京城の西北角にある西直門に出てここから萬壽山迄約二十支里、日本里にして四里ばかり自動車かバスだつたら四、五十分もあればよい。但しその間の沿道田園風景は四季それぞれに趣があるので、暇にまかせて歩くのも面白いと思ふ。まづ東海道五十三次と云ふところ、さすが昔王者の別莊に通ずる路、支那で道路の美しさは異とするに足るのである。この路傍に立並ぶは、松に非ずして楊柳。因んで楊柳大道と云ふ。初夏より晩秋へかけて綠の枝垂れが美しい。既に萬壽山を指呼の間に見る程の途中に海甸と云ふ田舍町がある。昔貴顯往復の衢路に當り、戸數にして三四百。ここの茶館では名物の地酒を賣る。海甸を出端れて間もなく、丁字形の岐路につき當る。ここから右折すれば圓明園舊址、淸華大學、燕京大學に出る。左折すれば目指すところの萬壽山だ。一望してまづその規模の大きさに驚かざるを得ない、いかにも支那らしい歷史を祕めた金殿玉樓、天地の間に聳えて文字通り豪華そのもの。嘗て東京の一文人を案內するに曰く、全く莫迦莫迦しいものを作つたものですね、これは大莫迦でなくては出來ませんよ。ここだけではない、北京全市王者に係りあるもの大きさを以て人を打たぬものがあらうか。蓋し觀光都市北京として世界に誇るところのものはすべてこれ等王朝の遺產にある。或は今や市民は感謝すべきかも知れぬ。一世の女傑西太后が夢の跡、若し海軍擴張費三千萬兩そのままに行はれたとしたら今頃は海の藻屑と化したらう。

それにしてもここを兵火にかけた紅毛軍の歷史は汚點として消えさうもない。さて門票を買つて境內に入れば第一に仁壽殿、と云つてここで一々說明するの煩を避けよう、詳しくは記事頁を參照して頂くとして、これより西に折れたら湖畔に出る。瀲灧たる湖光反照するところ綠樹鬱蒼たる小島あり、東岸に架けた大理の石橋と共に影を落した眺めはまとまり過ぎた繪に近い。遙か西方に續く楊柳の堤と併せ見て、江南の洞庭、西湖を思はすものがある。*

昆明湖畔から萬壽山を望む

WAN SHOU SHAN

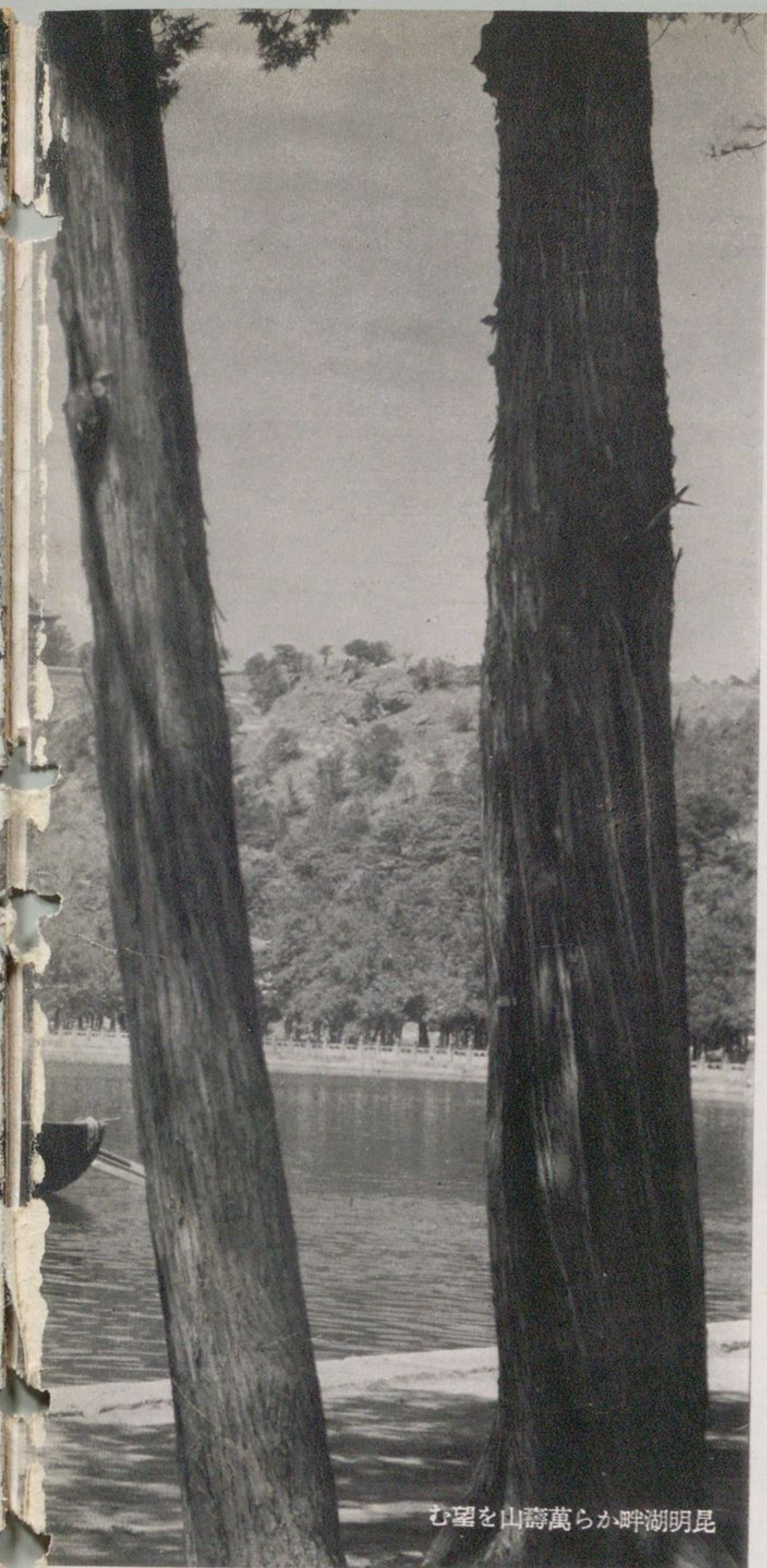
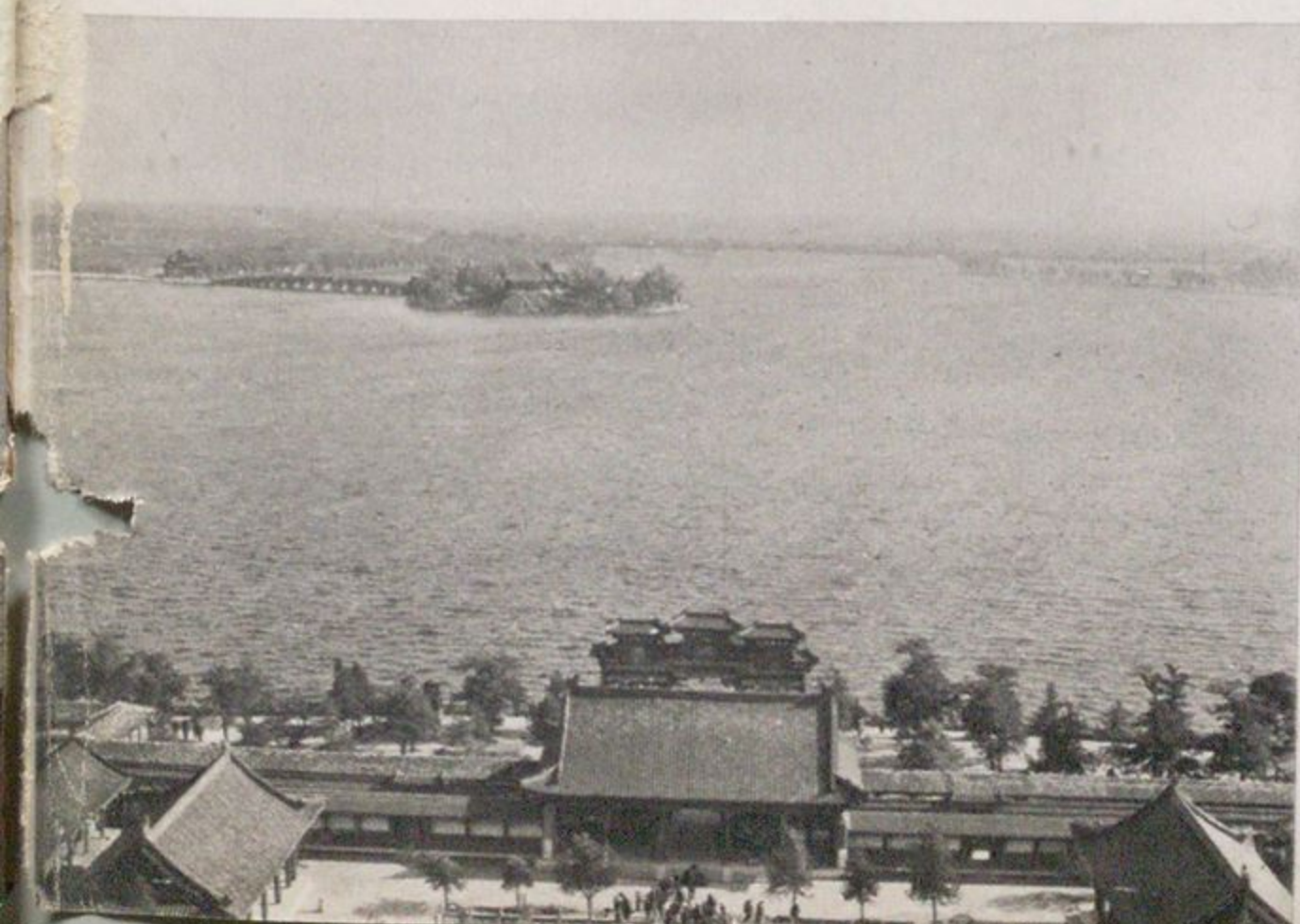
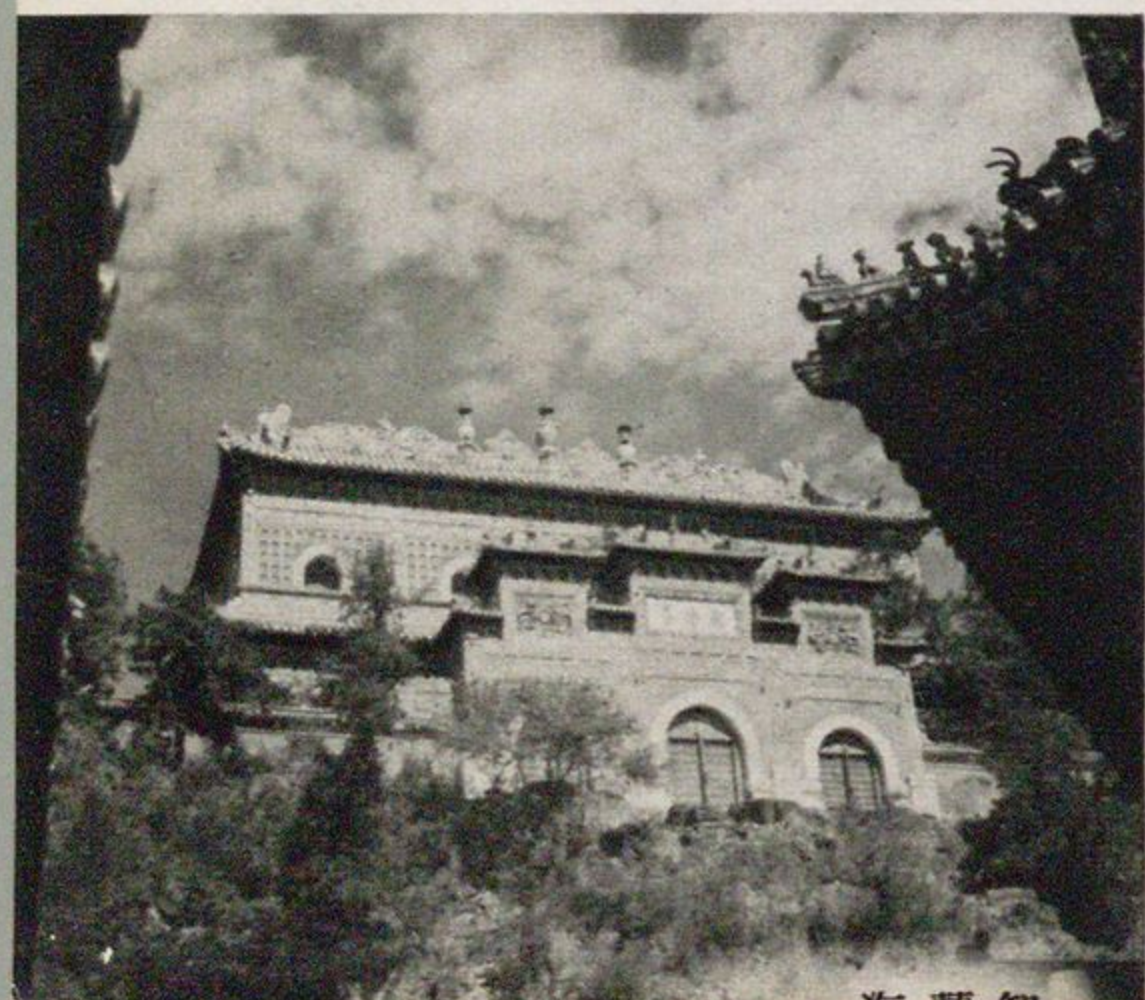
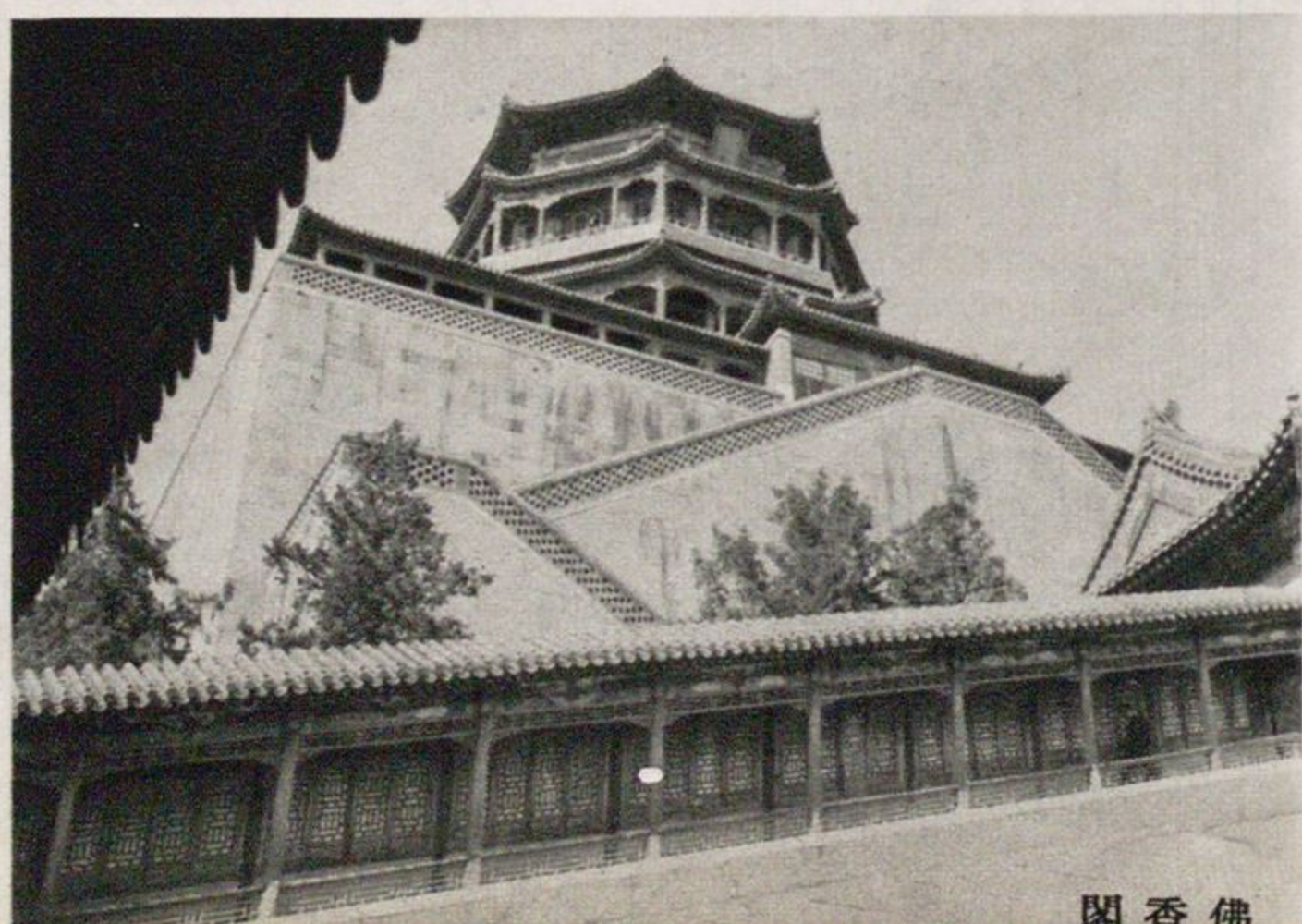
Summer Palace in the Suburb of Peking 1

智慧海

佛香閣

龍王廟より十七孔橋を見る

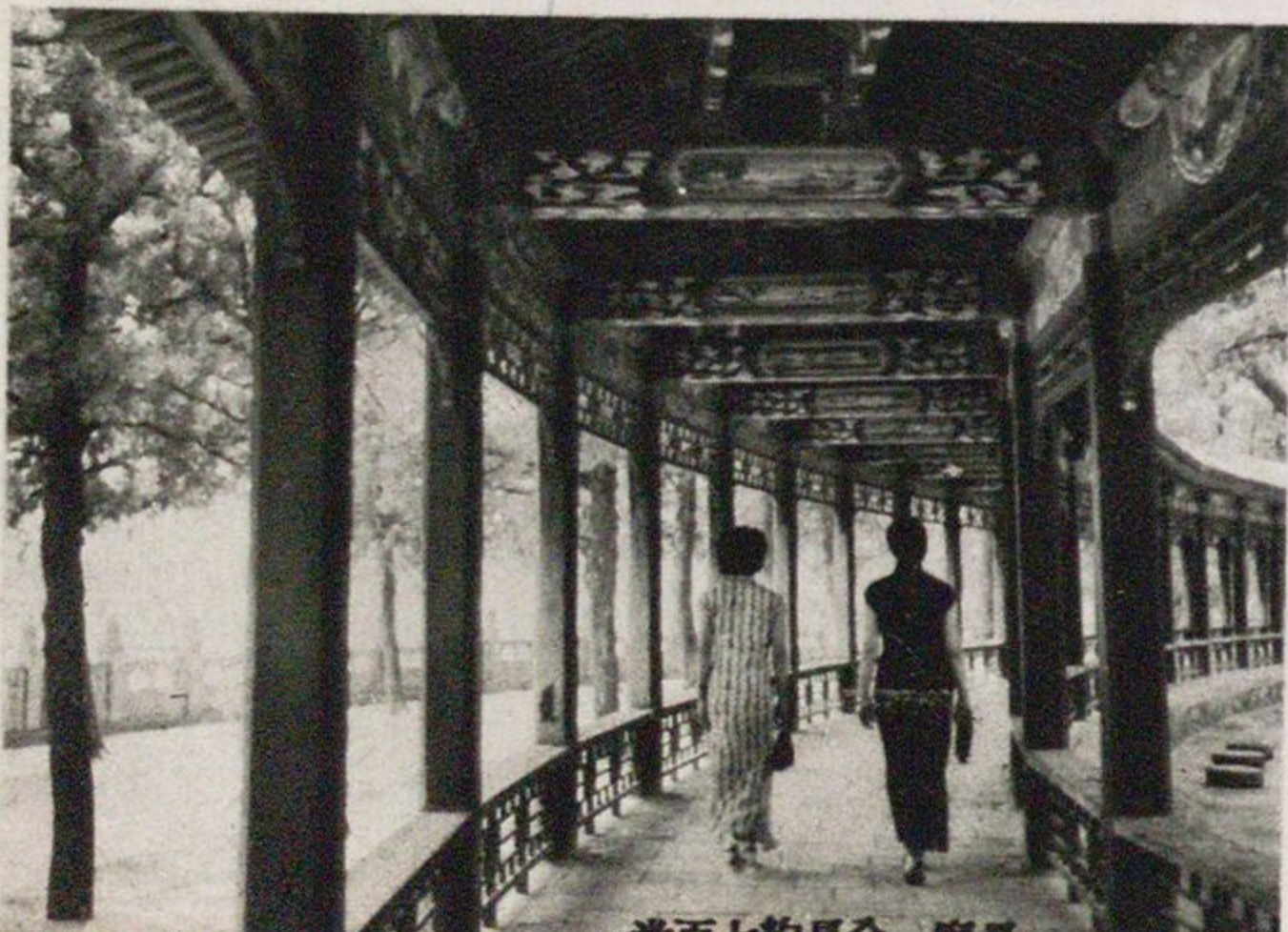
萬壽山 2

WAN SHOU SHAN II

*この昆明湖さへ大半人工に成つたと云ふだけて日本人には驚異、四百餘州の王者の威力はこんなものかと眼に痛い。この湖に纏る挿話一つ。國民革命軍長江一帶を風靡して、愈々華北に押寄せようと云ふ時分のこと、孤魂蕭々この昆明に身を投じた天才がある。即ち王國維と云ふ、嘗て日本に遊び京大あたりの若き學徒を刺戟した學者。生れは浙江海寧の人、別號靜安、代表作に「宋元戲曲史」がある。革命の烽火は南支にあつて舊派の學者に禍ひした葉德輝は銃殺、章太炎は家產沒收、さうした相繼ぐ凶報に、氏も亦清室に仕へた躰、胸中の苦悶やみがたきに出たものか、入水の日、終日湖畔に彽徊したと謂ふ。辭世に曰く

五十之年　只欠一死
經此世變　義無再辱

湖上の石舫

石舫內の喫茶店

×　　×

さてこの大理の石欄に沿うて右方に聳ゆるものは排雲殿、佛香閣。地勢に據つて築き上げた壯大華麗な五彩の建築は昆明の水と相俟つて、まさに天工にまがふばかりである。北に進めば樂壽殿、その後に西太后の便殿、これより西方邀月門を出たところが有名な長廊だ。廊下の梁欄、天井に描かれた極彩色の花鳥山水は何れも當時の名匠が技を競つたもの。古柏の間を縫うて絢爛たるあたり、美人を歩ませて申分なし。

この長廊を東西に分けて眞中に排雲門がある。門をくゞつて階を上れば、正面に排雲殿、中央寳座に西太后の油繪肖像を安置してゐる。これより左側數十級の石段を登りつめたところが佛香閣だ。高さ數丈、上下三層、六角の巨大な樓閣天際に聳え、佇立すれば四周の眺め一眸に集る。左方は無限の大平野、その間に北京城市が霞んで見える。右方に玉泉山の高塔手に取るが如く雲間重疊するは大行山脈に連る一群の山々。視線を落せば碧滿々たる昆明の水、脚下に映じて美しい。

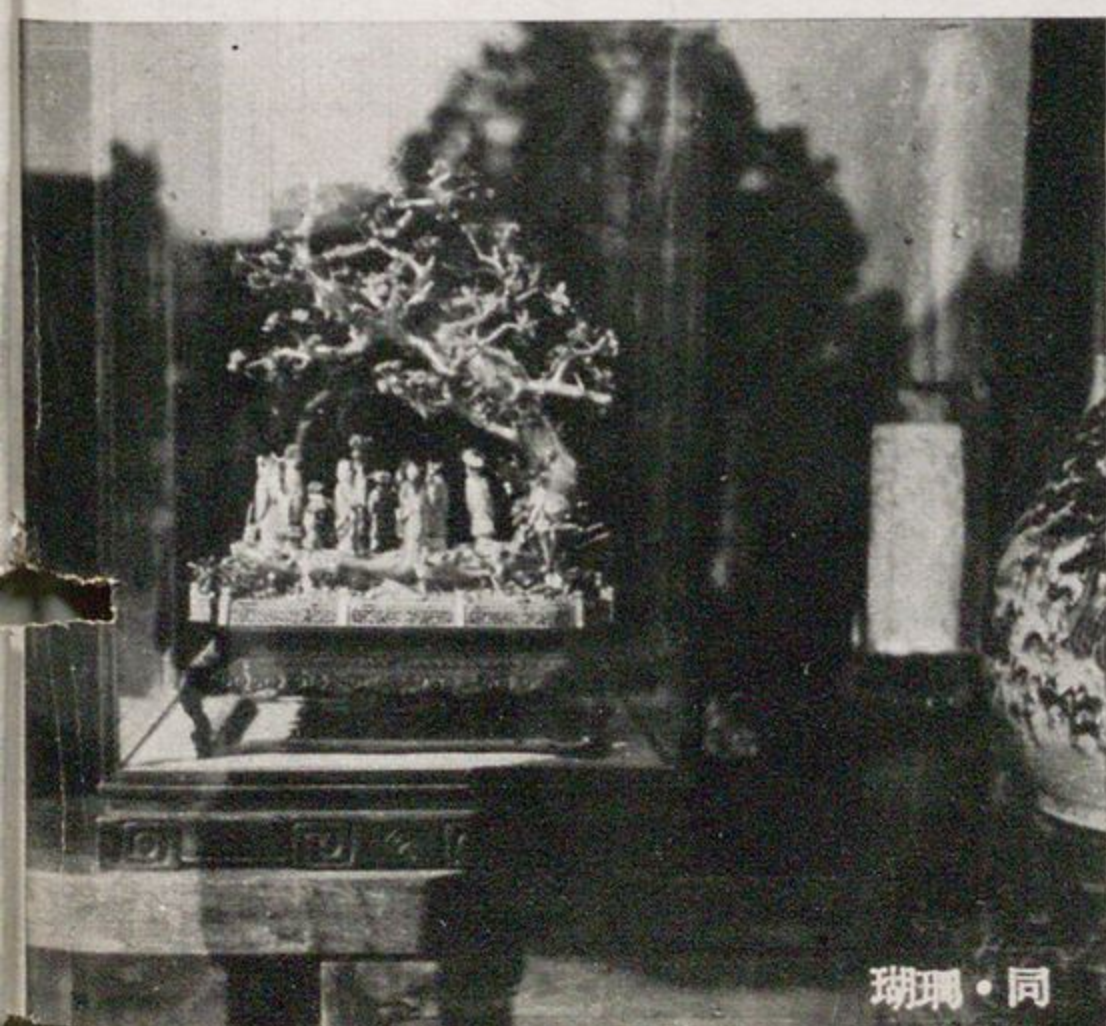
佛香閣の後に萬佛樓あり、峨々たる山頂の巖石を礎に、四壁は無慮一萬體の瑠璃の觀世音像を以て埋め、堂宇の精麗さ云ふべきなし。これより降つて西に長廊を出外れ湖畔に沿うて右折すれば寄瀾堂、その傍の*

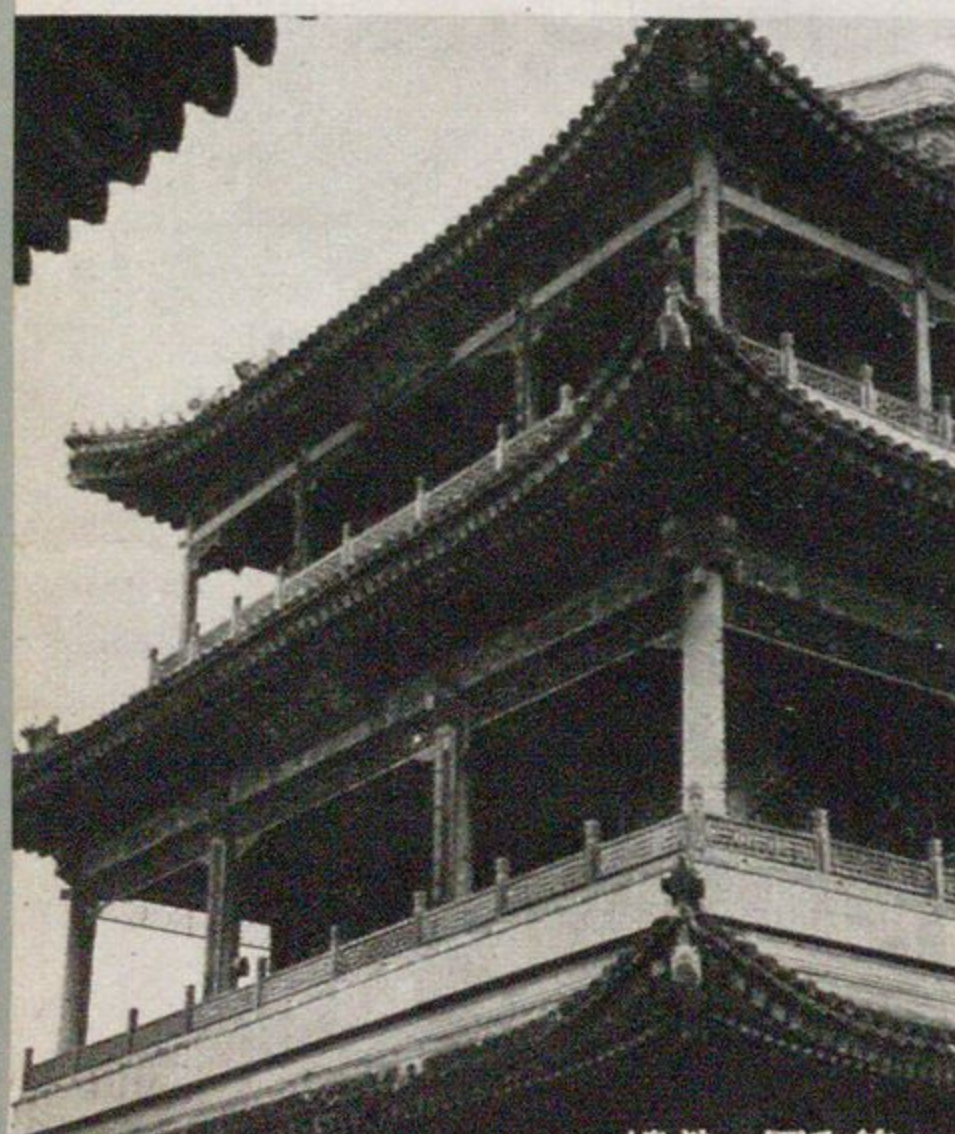
萬壽山

西太后の居室

同・珊瑚

排雲殿内寶物の一部

西太后愛用の車

＊入江に居据つてゐるのが例の石船だ。寫眞ではすべて大理石作りに見えるが、上部の屋形は木造で、しかもまがひの塗物はいかにも拙劣、エキゾチツクも惡趣味の尤なるもの。ここで東洋のクレオパトラ西太后は好んで宴を張つたさうである。舫に立つて見渡す長堤は楊柳を連ねて遙かに、湖面の漣と相和す。さてまた奥に進めば荇橋あり、橋を渡つて更に進めば入江の彼方に船塢が見える。西太后が玉杯に榮華の夢を映し、美少年を侍らせたらう畫舫も今は水浸りになつてあはれだ。

ここらで踵を返して一服するか、湖畔の茶亭に寄つて王者の離宮わが物顔にビールの泡を吹かすのもよい。實は今來た路は順序でなく、逆戻りして仁壽殿から右折すべきところであるが、すべて尨大な歴史の古蹟を重ねた建築ばかり、一見をすすめて後は記錄に委せたい。＊

泰山石

仁壽堂前の銅獸と太湖石

浮彫の水馬

西太后が光緒帝を幽閉した玉瀾堂の窓、窓の内側に煉瓦塀が築いてある

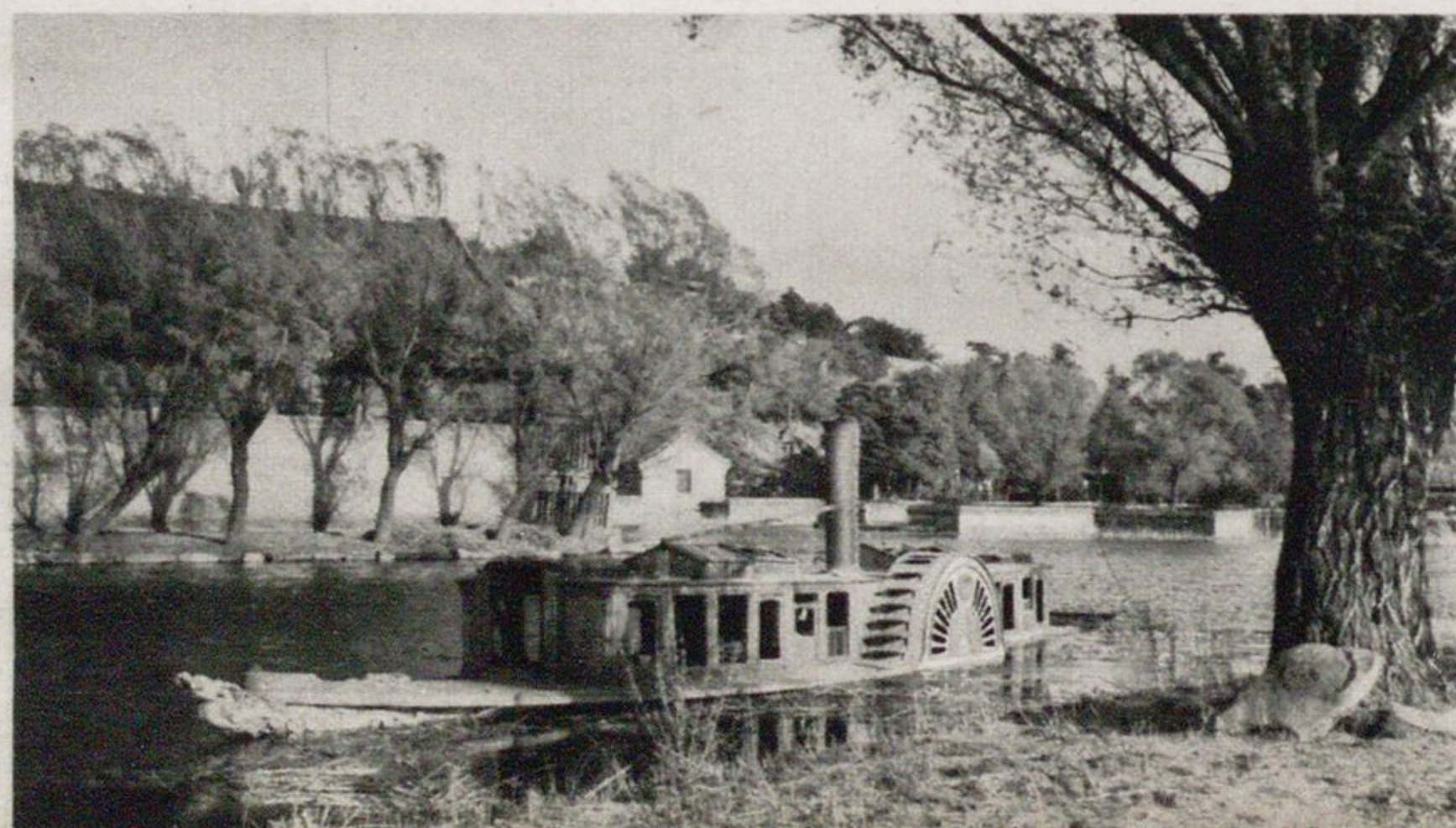
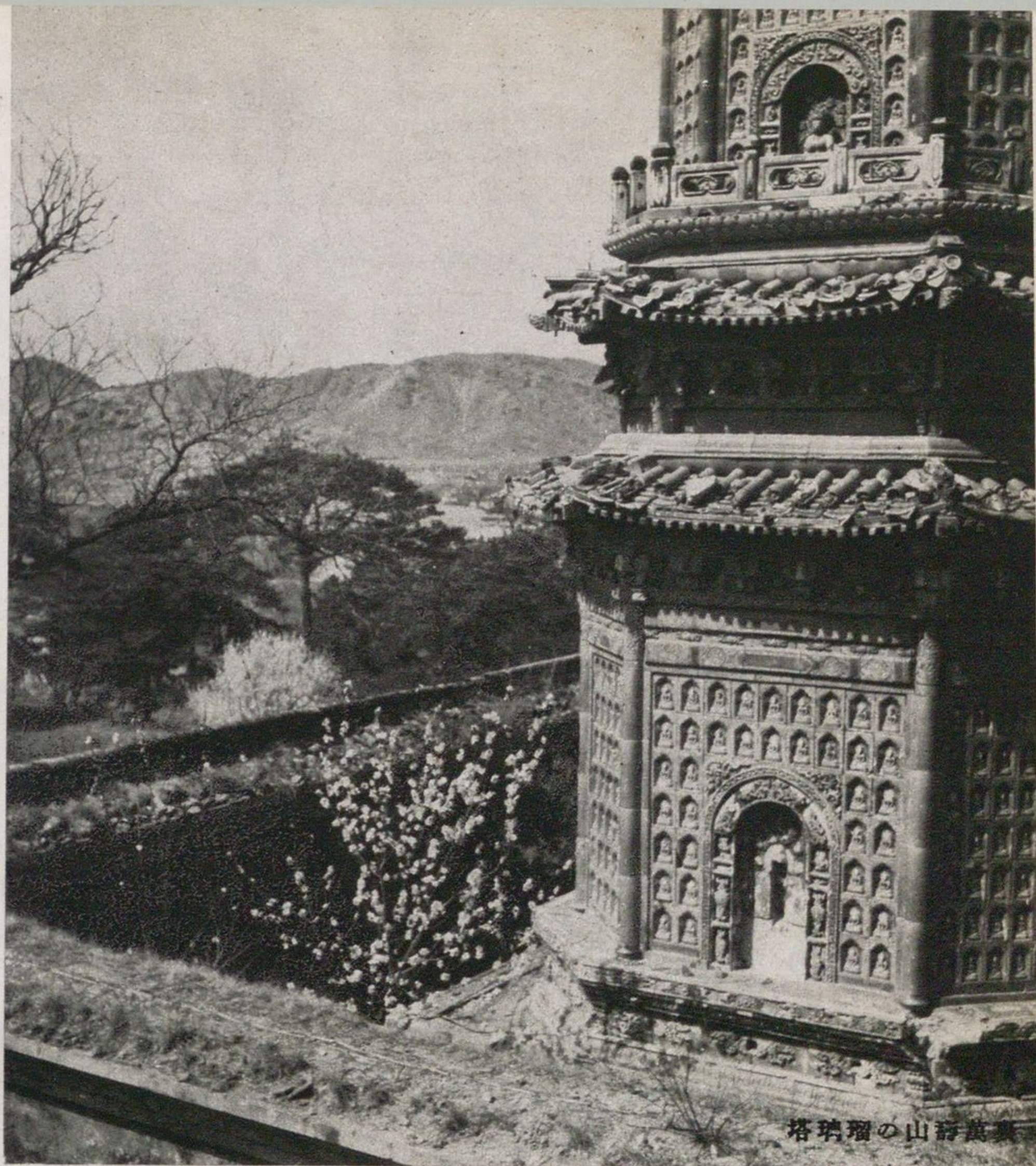
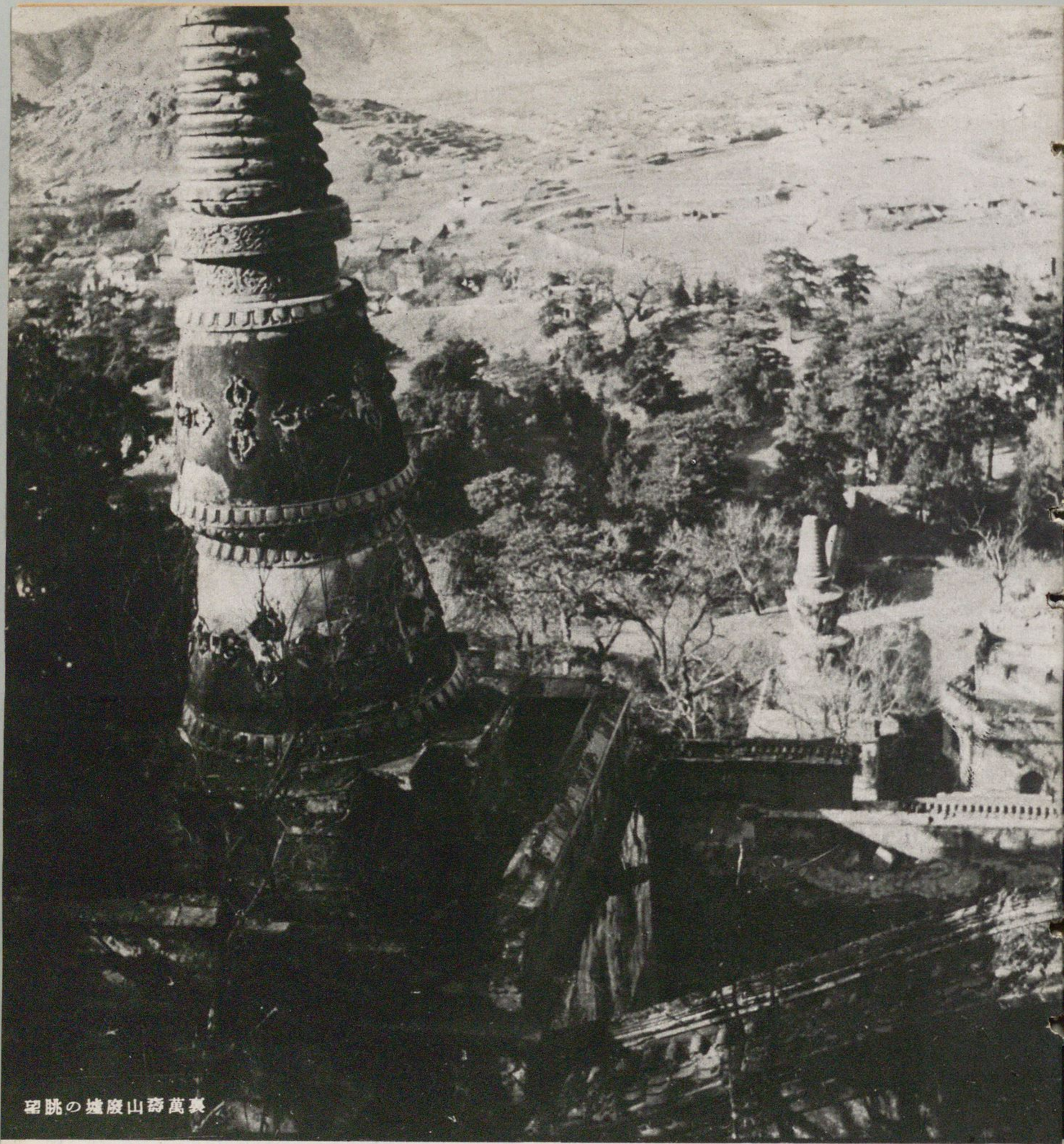
裏萬壽山

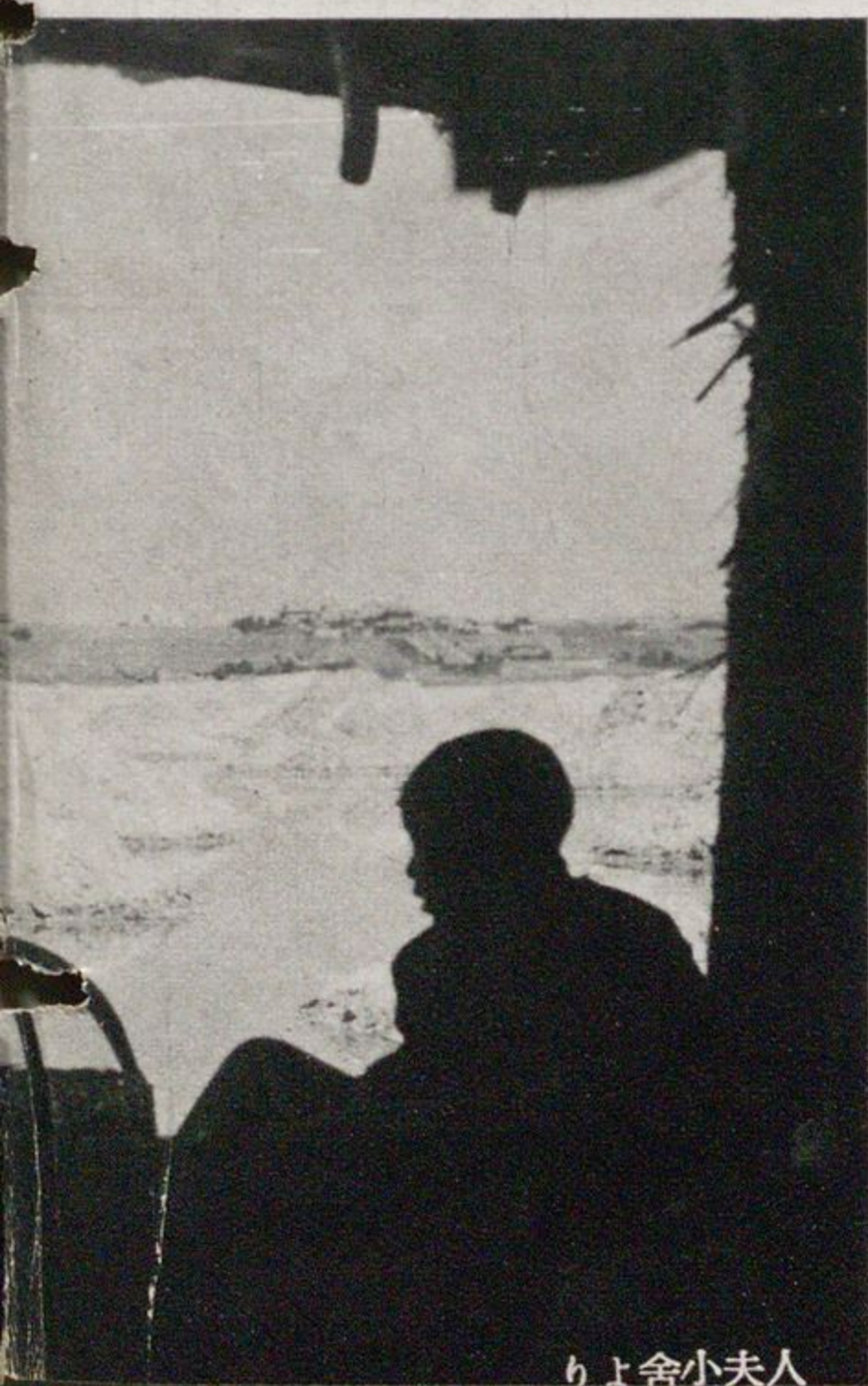
4

裏萬壽山の瑠璃塔

廢墟の瓦片

裏庭の玉帶橋……榮枯久しうして年々歳々花相似と

裏萬壽山廢墟の眺望

*たゞ少し觸れておきたいのは、仁壽殿から北に拔けて見る御用劇場德和園だ。園內の大舞臺は旣に古びてゐるが三層數丈の大殿堂、仰げば空に喰入るやう。以て淸朝皇帝、皇族の芝居狂を知ることが出來る。順治帝は尤西堂作るところの續離騷樂府を內苑に演ぜしめ、康熙帝は洪昉思の長生殿、孔東塘の桃花扉を宮中に樂しんだ。乾隆帝は南巡に際して南方の名伶を同伴して養ふ程の好事。西太后の狂振りは云はずもがな、こんな王家の別莊にこの舞臺は不思議でない。昔貴顯宮女綺羅星の如く三方の特別席に居並んだらう光景は思ふだに夢らしい。今ここに銅鑼無く、胡琴咽ばず、いたづらに黃燕草を點じて、小鳥かすかに囀る。城內に榮ゆる戲院の數々と思ひ合せて、浮世盛衰の感慨なきを得ない。

最後に附加へておきたいのは佛香閣の眞後の裏萬壽山である。卽ち嘗て英佛聯合軍に燒拂はれた後大廟の舊址、表の絢爛華麗さに對照して荒涼たる風趣は寧ろ日本人の好みに親しい、一遊をすすめる。

SALT-LAKE in Yün Cheng district I

運城の鹽池 その一

海岸線から遠く離れた蒙古や支那の奥地では數千年の昔から岩鹽、井鹽、池鹽が盛んに使用されてゐた。

運城の鹽池は別名解池と稱し東西八里南北二里、中條山脈の麓に横たはつてゐる。この地は神農時代已に製鹽事業が發達してゐたと謂はれるが秦の末期迄は甚だ振はなかつた。然るに周の武王はこの鹽池に着目し鹽運使を差遣して人民の私營を禁じ官營となした。以來運城の製鹽業は隆昌を極めたが、當時池鹽は四ツの井鹽と共に珍重せられ王侯や賓客の膳のみに供されてゐた。

鹽池の製鹽は極めて簡單で鹽水を鹽田に移し之を數日天日に晒し乾燥せしめる方法である。晒製の際天氣は晴朗でなければならないが風向も又鹽の良否に甚だしく影響する。南風に晒されたものは色艶があつて粒が大きく美味なので最佳とされてゐる。舜帝の詩に、「南風の薫せる以て吾民の慍を解くべし」とは、この消息を傳ふるものである。年産額二億萬斤。山西省の西部一帶河南省の北部並びに陝西省の一部に向けられ、山西省南部における出貨の大宗をなしてゐる。

鹽池の北岸に續く長い丘陵には池神廟がある。唐の代宗大曆十二年秋雨のため鹽池が氾濫し鹽田があはや淹沒しようとした時憂國恤民の士として世に知られてゐた鹽運使の崔陲偶が非常に之を憂へ、丘陵に祠をたて齋戒沐浴して天に祈り役夫を集め堤防を修築して治水に努めた。幸ひにして崔陲偶の誠意が天に通じたと見え、數日後空は一片の雲もなく澄みわたり、池中には紅鹽がみちあふれきらきらと太陽に輝いてその色は丹沙の樣であつたと云ふ。代宗は之を瑞兆となし詔を下し寶應、靈慶の池名を賜り、翌十三年勅使を差遣して廟を建立せしめたのである。

廟外に海光樓と稱する高樓が聳え、その下に古めかしい石琴がある。これをたたくと丁度琴絃を彈いた樣な音が聞え海光樓に反響して山中に妙々と響き渡る。ここが即ち舜帝彈琴の址と云ひ傳へられてゐる琴臺である。

池神廟の周圍は樹木茂り、空氣清澄丘陵の頂上より蜒々として擴がる鹽池を見おろす景色は又快絶を極める。

人夫小舍より

鹽池全景

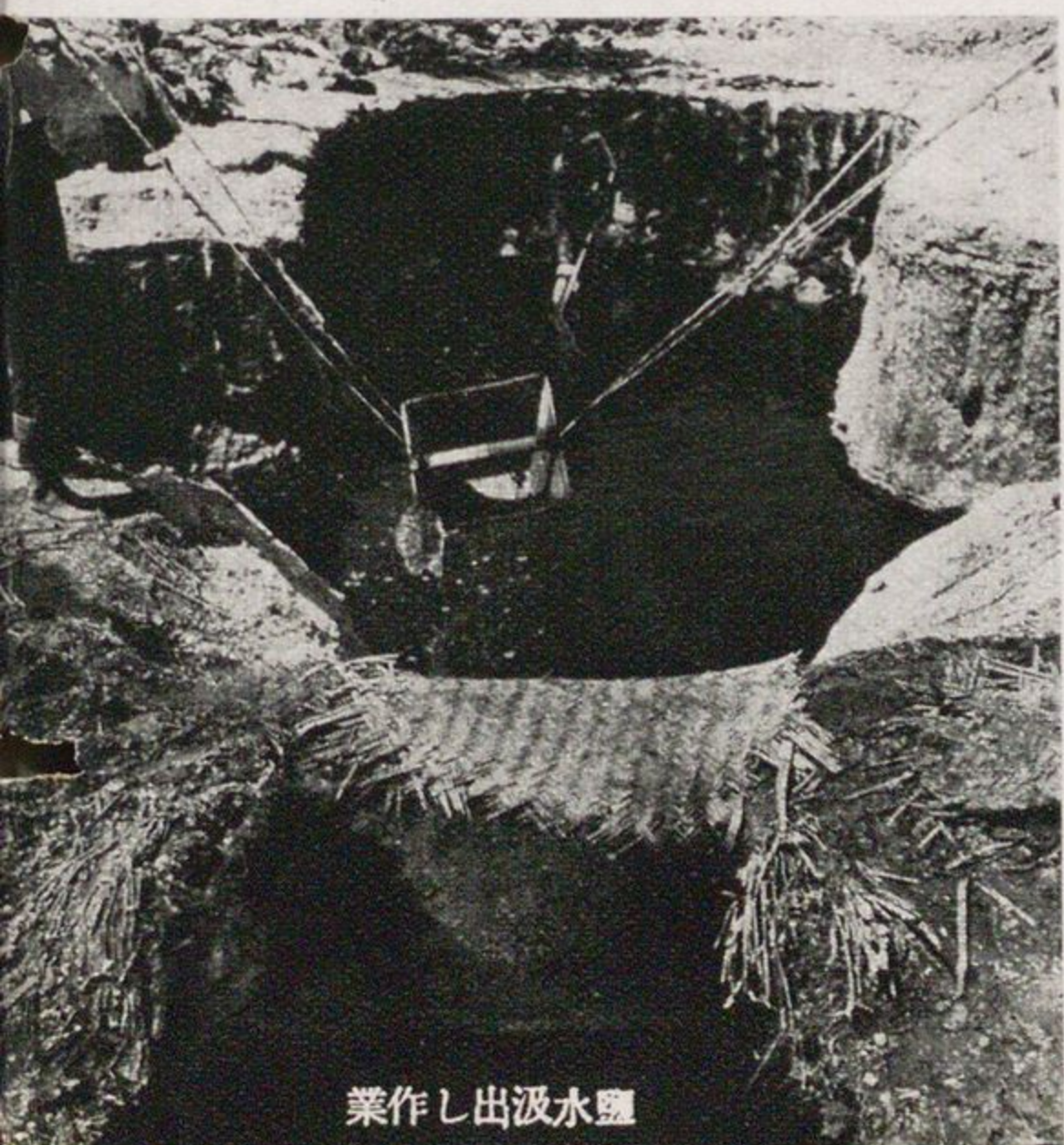
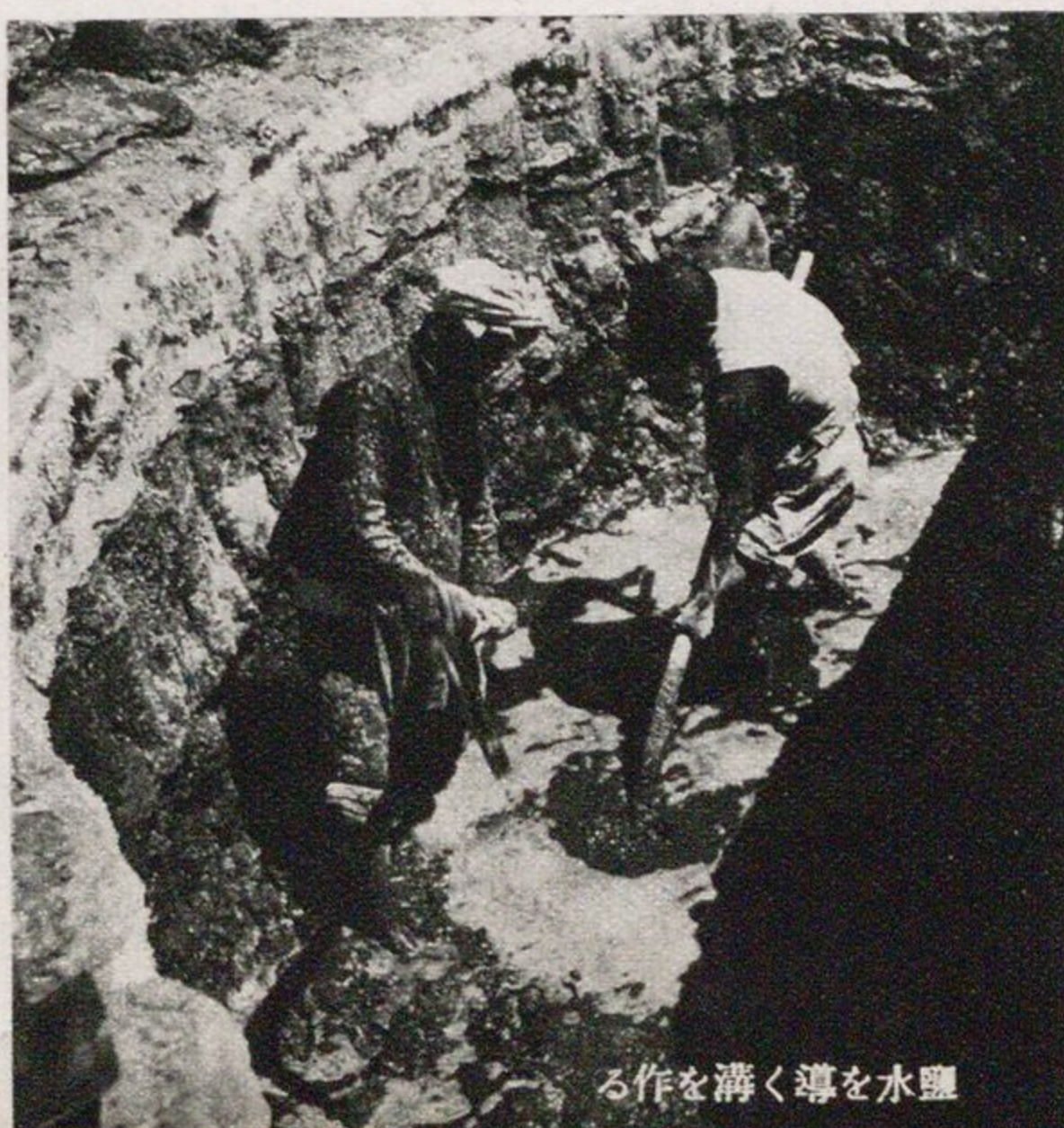
神殿より鹽池を望む。神殿には舜の彈琴處及石琴あり

運城の鹽池

その二

鹽田に流れこむ鹽水

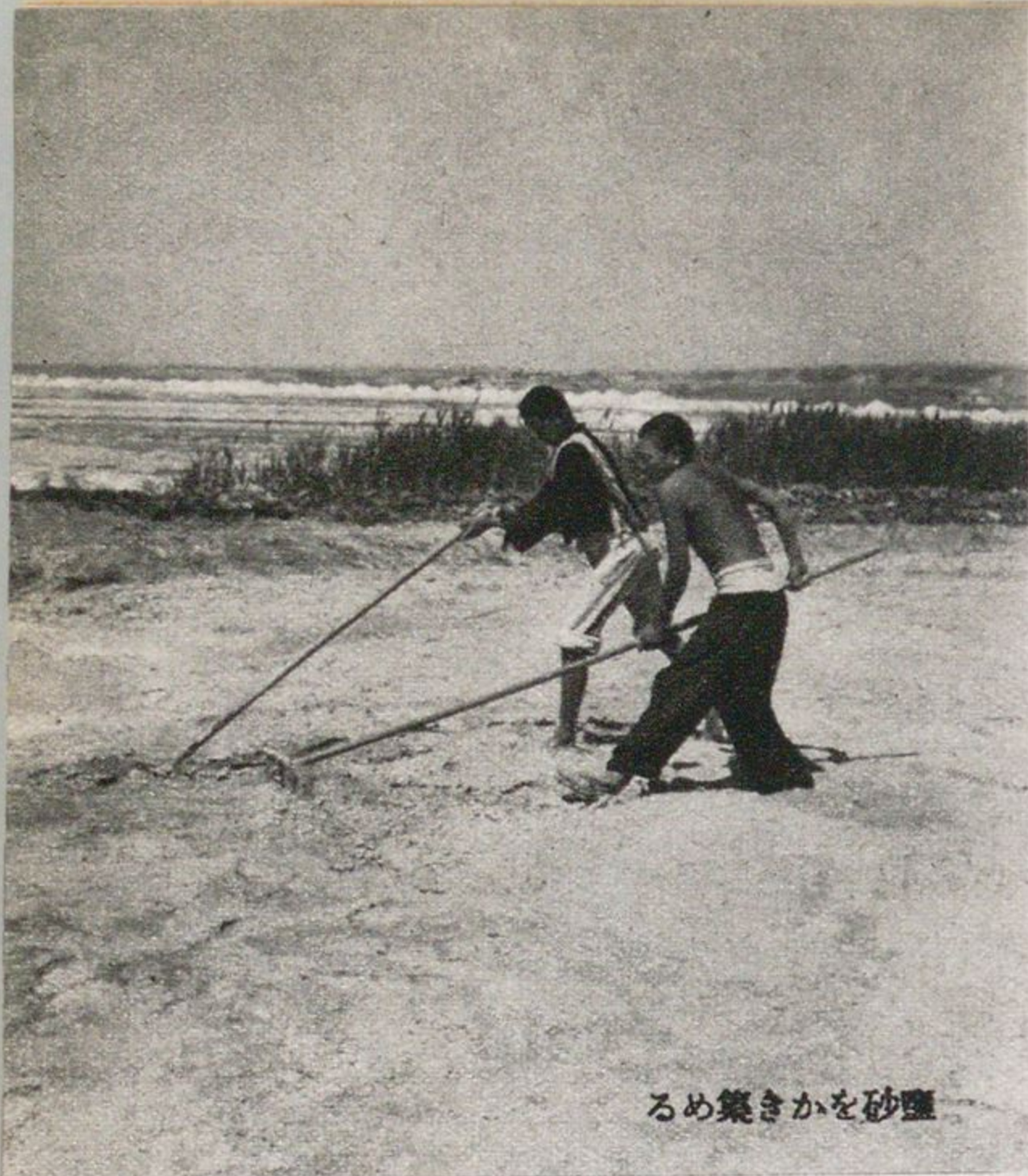
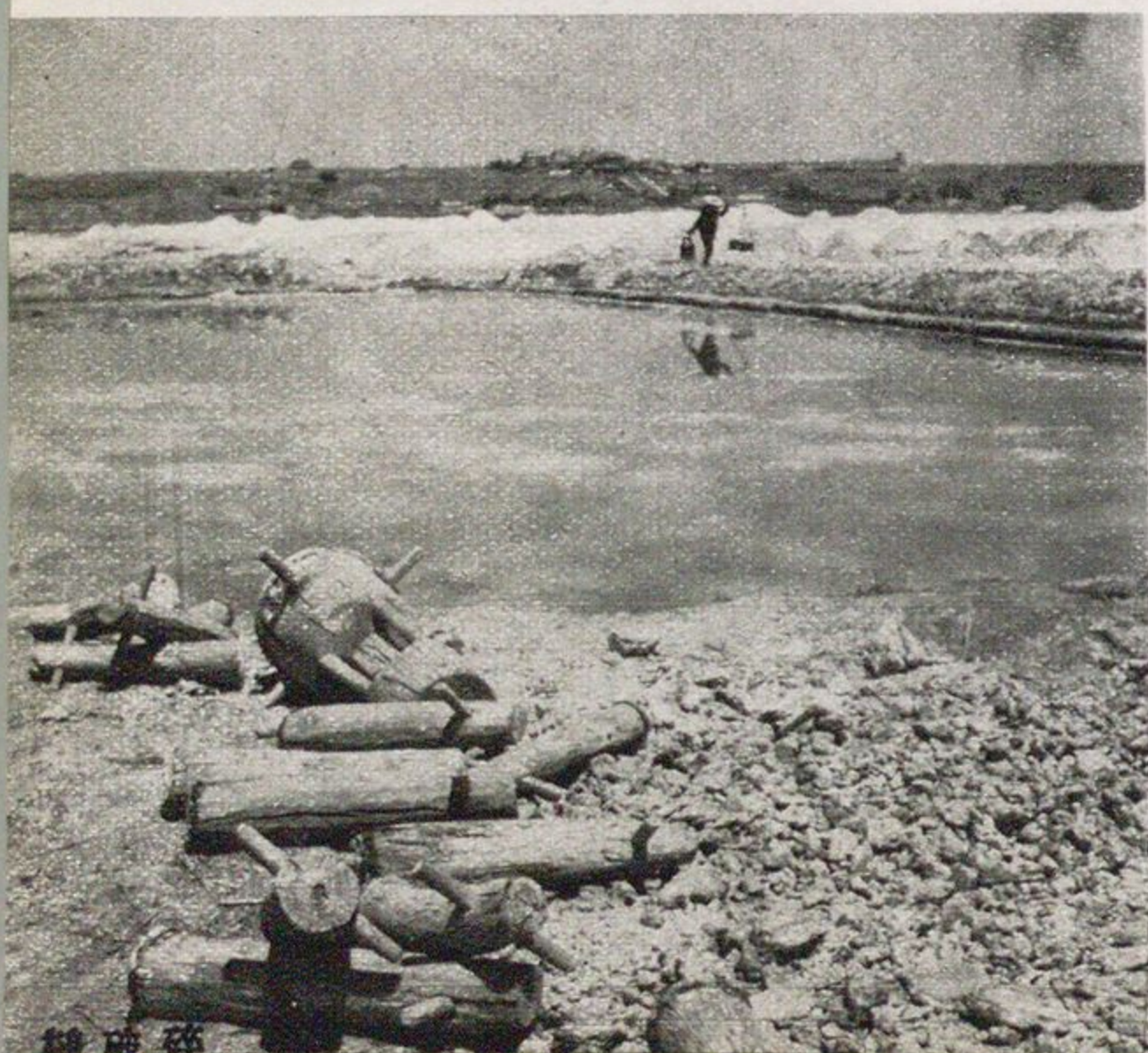
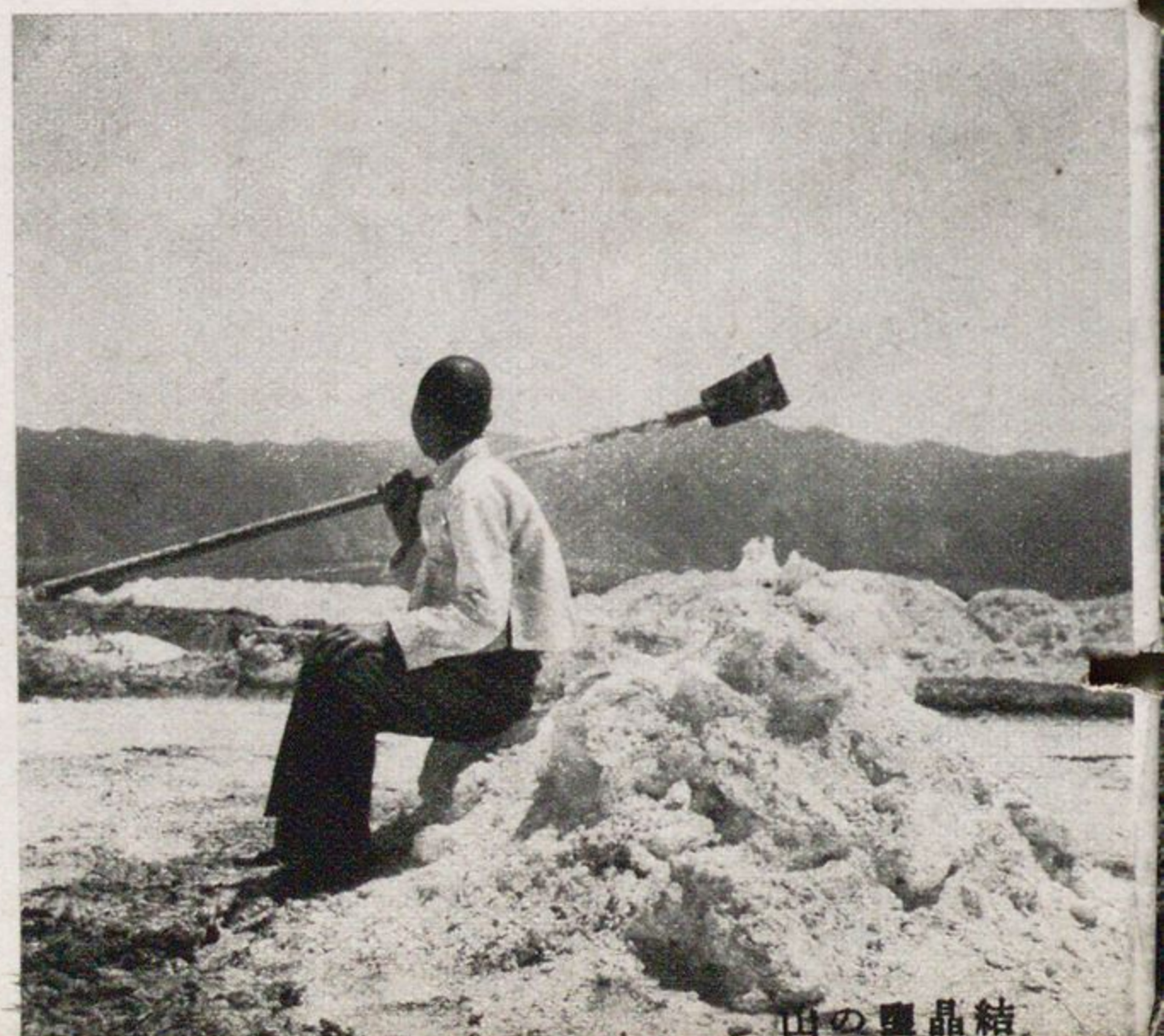
鹽水汲出し作業

鹽水を導く溝を作る

SALT-LAKE in Yün chang district II

鹽砂をかき集める

輝く結晶鹽

破碎機

結晶鹽の山

GIRL-GUIDES of the Railway, Peking

看護婦としての活動

旅客の手荷物検査

驛前廣場の行進

拳銃射撃練習

女警

華北交通會社北京鐵路局

支那の女性も古く厚い封建の土塀を破つて颯爽と職業戦線に乘り出してきたが一日本では普通の職業で支那に珍しいのは商店の女店員、バスガール。日本になくて支那にある職業に女警がある。

ケンブリツヂ型の黒い學生帽に黒いスーツをきた市の女のお巡りさん。カーキ色のスーツに身をかためた華北交通會社の女警務さん等がそれである。

寫眞は北京驛にゐる女警であるが、各列車の到着毎に溢れ流れてゆく各國人の中、滿支人の女性に對する檢問檢査にあたつてゐる。キビキビした檢査とやさしい態度に、兎角事務的に冷たくなりがちな檢問檢査も好感をもつて迎へられてゐる。

今年の三月から實施されたのであるが成績が甚だ良いので第一次の十名に加へて第二次の十一名を募集中である。大體女學校卒業程度の日語講習會卒業生が多い。

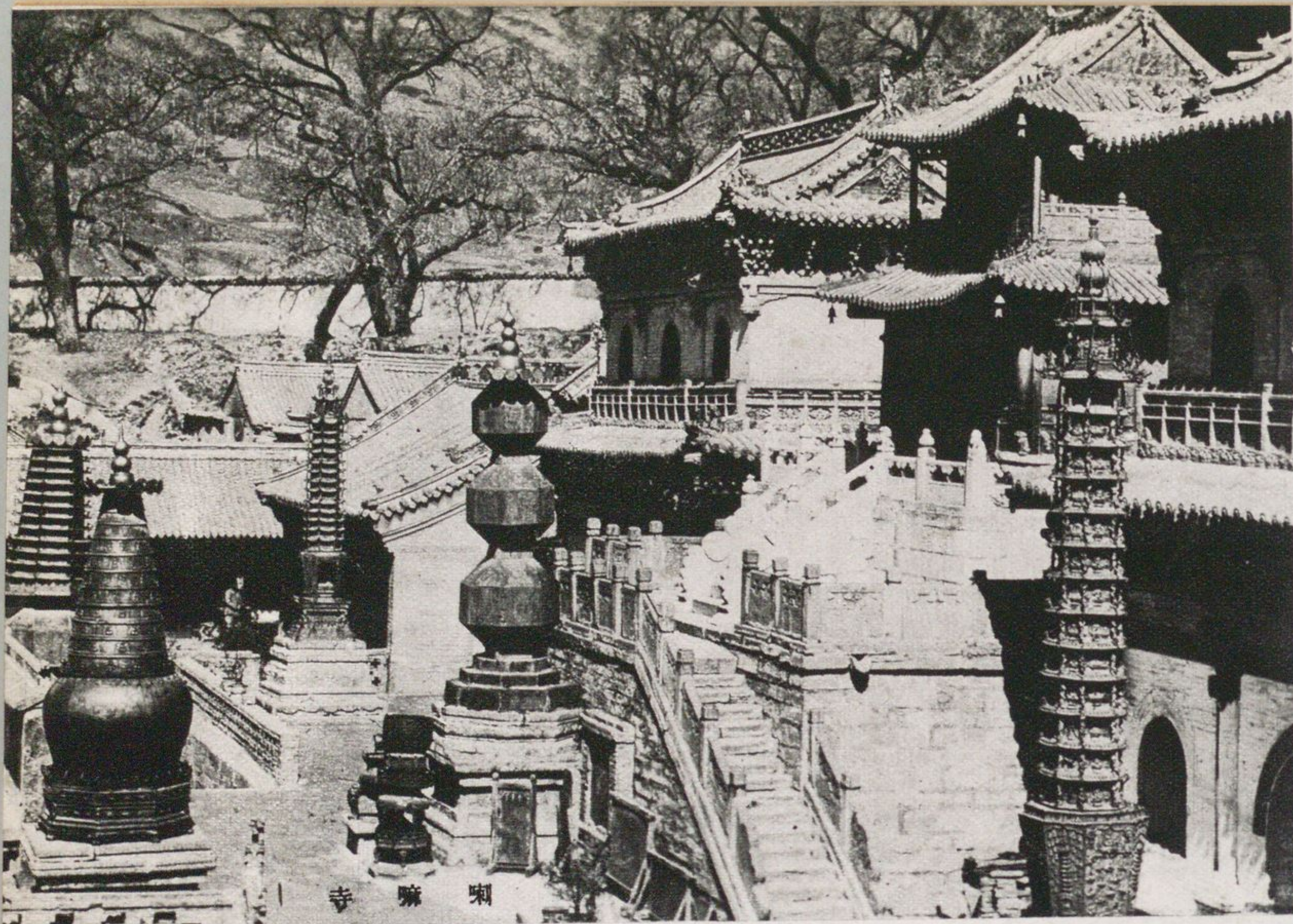
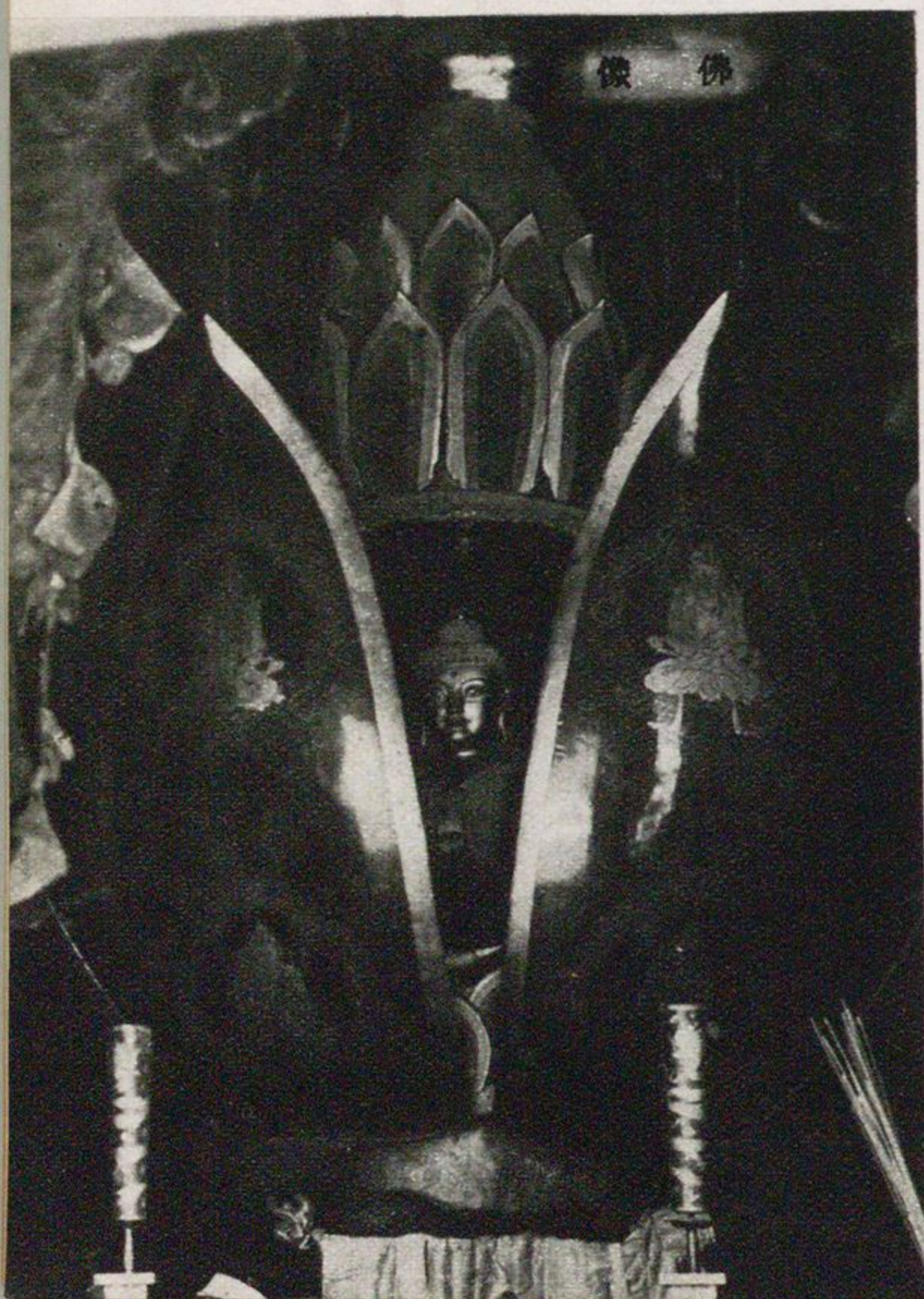
朝九時出動、直ちに制服にきかへ、午後七時迄列車到着毎に事務にあたり、その間には、讀書、射撃の練習、又時には施療班の愛路工作に協力して看護婦として働く事もある。

北支に於ては北京驛が女警採用のトツプをきり、濟南驛も最近これに倣ひ、天津も近々實施しようとしてゐる。

休憩時間の團欒

觀音堂

喇嘛寺

五臺山

WU TAI SHAN,
the famous buddhist site in Shansi district

五臺山は山西省の東北部に位し海拔約一萬尺、盛夏でもなほ涼しいので淸涼山ともいふ。支那佛教三大靈場の一つ。後漢の頃こゝに寺宇を建立してから近代に至るまで寺數實に三百餘に達してゐたが、現在では僅に百餘に過ぎない。しかし大顯通寺や唐の澄觀が華嚴宗を大成したといふ淸涼寺等著名の古刹多く、喇嘛寺も大文珠寺等十刹に及んでゐる。我が國からも往時この靈場に遊んだ學僧の少くなかつたことは、史書を繙く者のよく知るところである。この由緒ある靈域も事變以來、共產軍に蹂躙されてゐたが、皇軍の數回に亙る攻擊によつて我が手に歸し、再び前の姿に立ちかへりつゝある。（三十七頁記事參照）

佛像

娘子關

NIANG TSU KWAN, most well-known barrier along the Chen-Tai R. at the east end of Shansi district

娘子關は石家莊と太原を結ぶ正太線の沿線にある。古來天下三關の一と稱され、天嶮大行山脈中でも最高の場所にあり標高三千尺に達する要關である。曹操が吟じた

「北　大行山に登る
艱い哉　何ぞ巍巍たる
羊腸　坂は詰屈して
車輪之がために摧く……」

はよくその狀景を表はしてゐる。

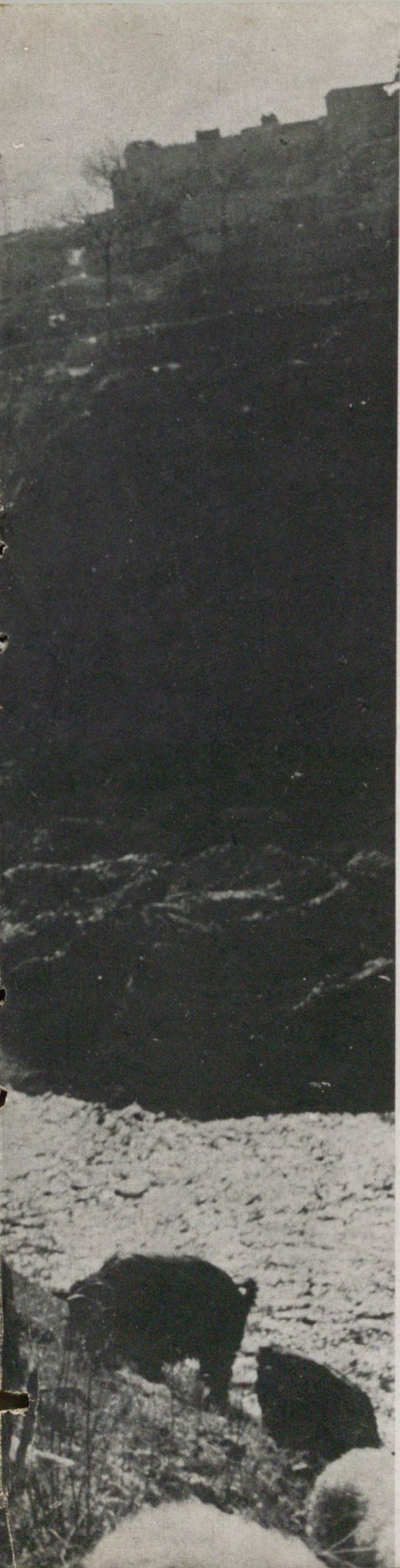
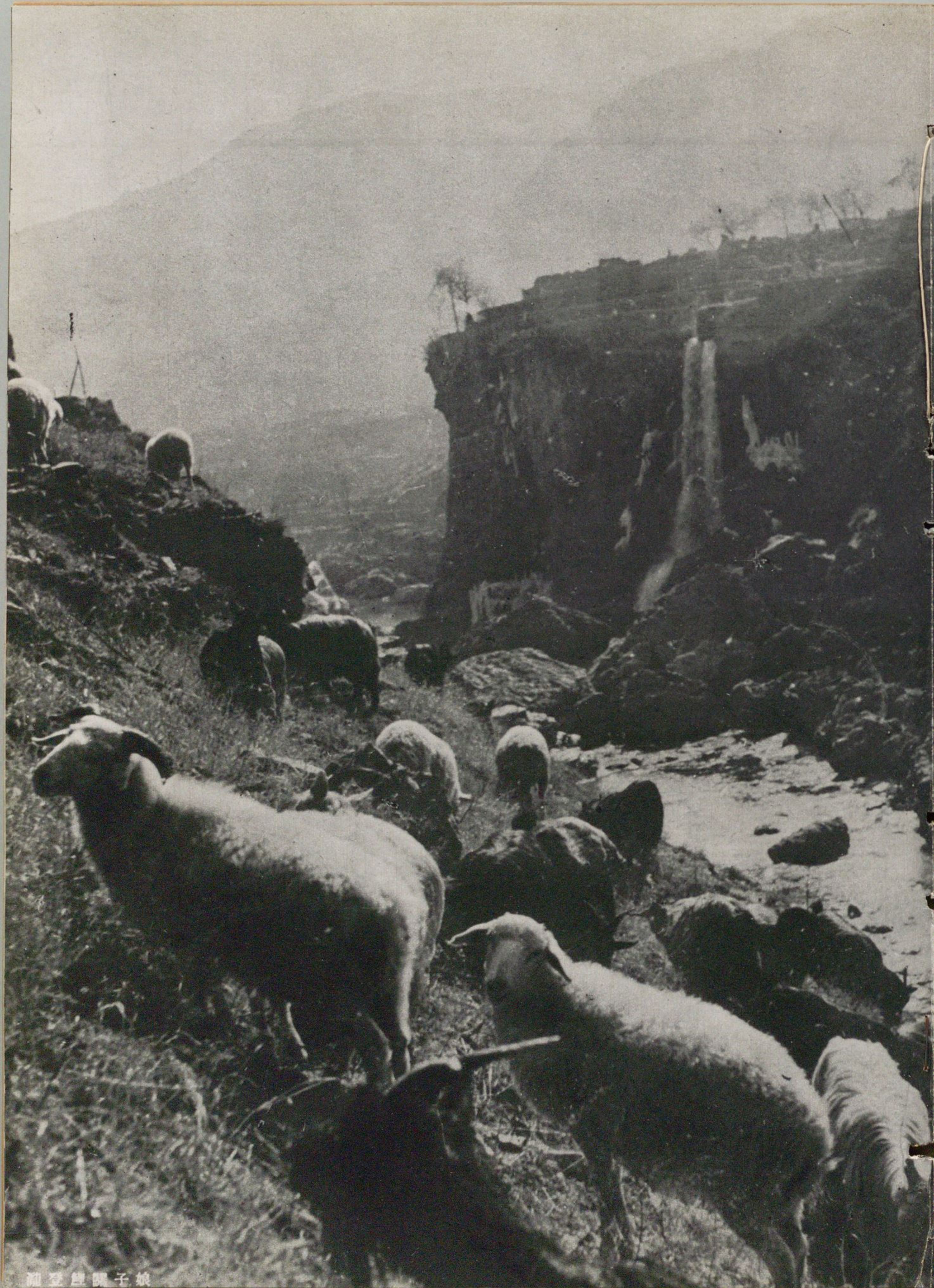
今次事變に我が鯉登、小林兩部隊が、朱德の指揮する共產軍の精鋭一ケ師を相手に壯烈な山岳戰を展開して、彼等が得意のゲリラ戰術を破り、太原攻略の緒を開いたことは記憶に新らしい。驛近く車窓に見える瀧は、皇軍の奮戰を記念し、部隊長の名をとつて「鯉登瀧」と命名されてゐる。

昔、唐の平陽姫がここに兵を駐めたので娘子關の名が出たと言はれ、北支には珍らしい幽邃境である。

附近の町

娘子關豐登潤

花と姑娘

晩香玉

余以蘭爲可恃兮
羌無實而容長
委厥美以從俗兮
苟得列乎衆芳

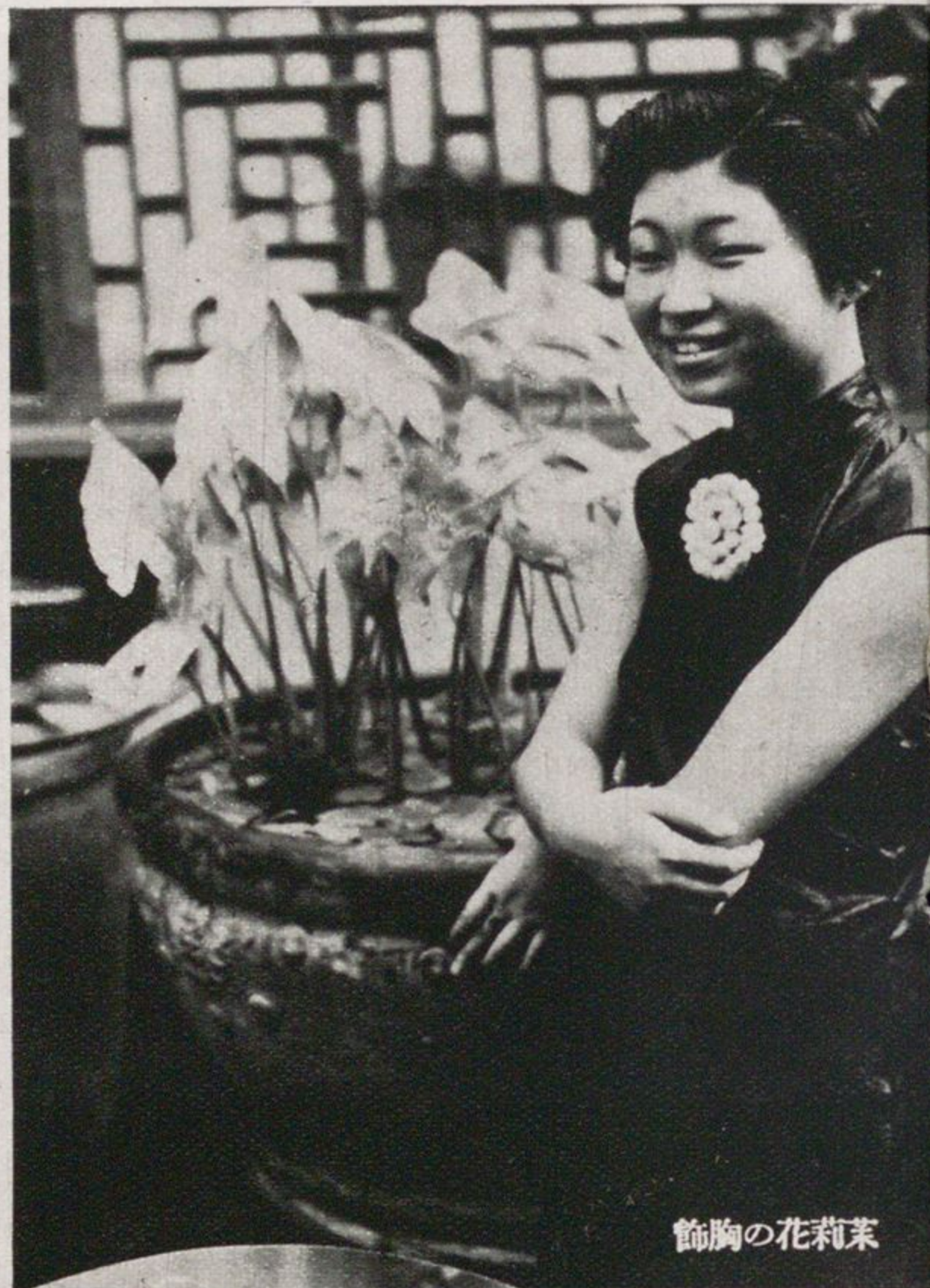
『楚辭』にこんな詩があります。世に容れられなかつた烈々たる愛國者、楚人屈原が憂憤はこの一卷に凝つて人を搏つ。蘭は國士の香にして尋常の芳草でない。高邁にして忠信、一世の國士を以て任じた屈原の肝膽相照すと信じた盟友に裏切られた胸中。彼等時流におもねつて明哲保身以て君子の列に入らうとは厚顔至極と云ふのである。頃日北京娘が身に佩びて何程の感慨あるかは問はず、馥郁として人を恍惚たらしむる玉蘭は即ち國士、茉莉花、晩香玉は、まさに君子と云ふべきでせう。何れも北京の名花たるを失はぬもの。

裝身用として北京娘、就中色街の女達が香水代りに使ふもので一番普通なのは茉莉花、次に玉蘭。細い針金を以て綴るのですが値は五ツ十錢程度、茉莉と玉蘭を組合せたのもあります。晩香玉は夜に入つて特に匂ふ花。但しこれはあまり裝身用に供しません。貌清楚にして芳香紛々たるところは高貴の伶人を思はせる。本名は土觘螺斯、塞外から移入されたもので、昔聖祖仁皇帝その性に因んで今の名を賜つたと云ふ由緒ある花。茉莉、玉蘭が市場に上るのは大體六月末から、少し遲れて晩香玉、何れも九月十月にかけて見受けます。尚北京の花の大部分は近くの豐臺から出ます。

花屋の店頭にて

茉莉花の胸飾

玉蘭花の胸飾

茉莉花の簪

張家口

その一

KALGAN where the Meng-Chiang Federal Council situated

張家口は京津地方から内外蒙古に通ずる交通の要衝で海拔二千七百呎の高原地帶にある。東西北の三面は山に圍まれ、南は宣化平地に向つて開かれてゐる。市街はこの南の斜面に發展し日當りよく、特有な蒙古風による黄塵萬丈の季節を除いては寒暑共に好適な健康地帶である。街の相貌は泥塀、泥壁の低い家並みが續いて、蒙古に近い原始的な落ちつきを見せてゐる。

人口十萬、外人の居住者は百名内外、日本人は事變前約五百名居住してゐたが、今次の事變により察南自治政府及

土塀の町・謳歌安居

蒙疆聯合委員會等の成立を見、蒙疆の首都として更生以來、日本人の進出する者日に多く現在八千名を超え躍進的增加を示してゐる。

悠容せまらぬ町の相貌

郊外（泥壁・泥屋根の家）

繁華街

大境門外

張家口　その二

KALGAN II

張家口の北關と稱せらる
る大境門は長城の

る山麓に開かれ、こゝを通過して蒙古への大道が一直線に庫倫へ向つてゐる。

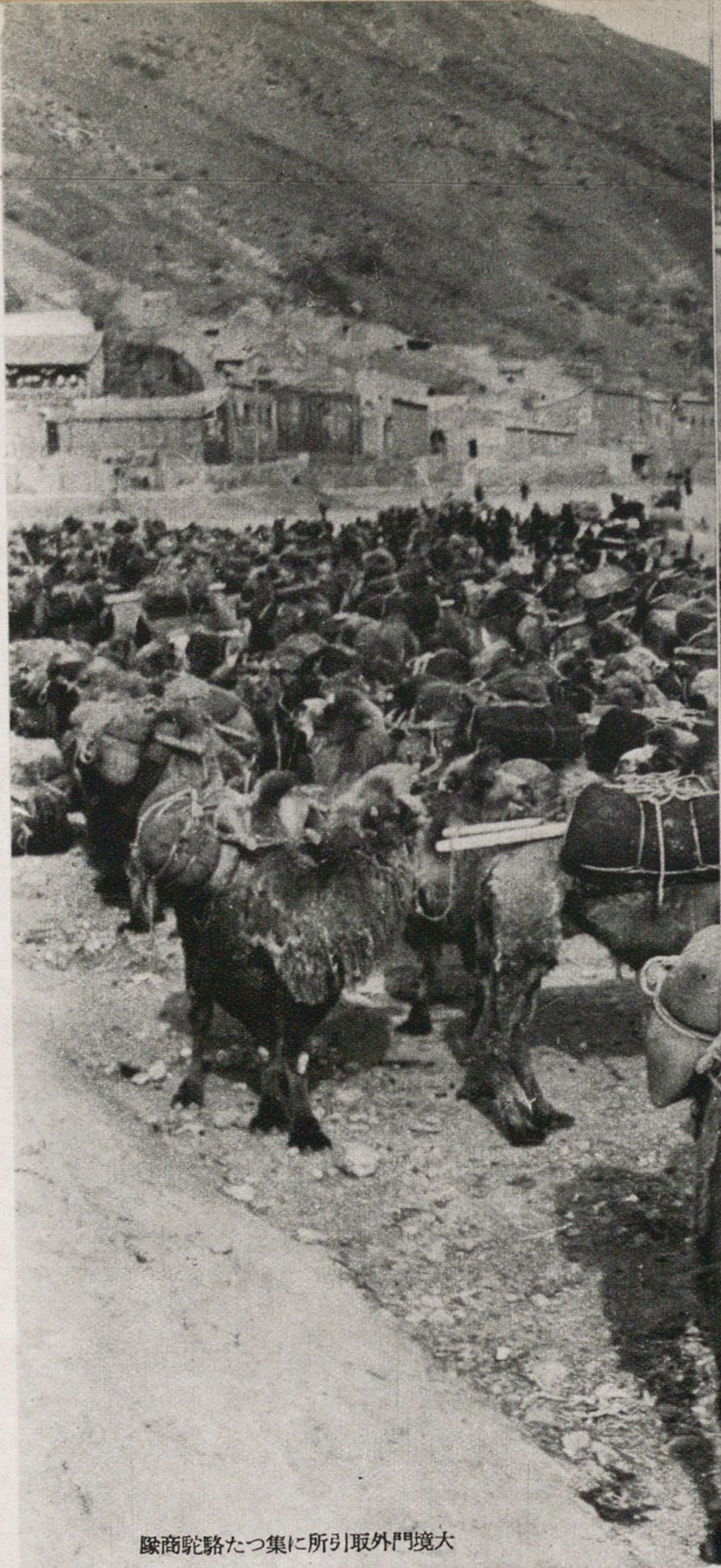
大境門一帶は清水河支流の形成する河谷で、清朝時代、外蒙古及び露國へ對する貿易市場であつ

蒙古への道

市の立つ朝

食堂車の蒙古人王族（京包線にて）

磧の洗濯

大境門外取引所に集つた駱駝商隊

た。河床には外蒙古、遠くは露國からはるばる沙漠を渡つて皮革、羊毛、駱駝毛、天然曹達、鹽等を運んで來る數千頭の駱駝隊が横はり、數十戸の庫倫莊軒を並べ隆昌を極めたのである。然るに外蒙古との隔絶後、今では大境門の貿易も衰微し、附近にある庫倫莊の商屋に昔の殷盛の名殘りを止めるのみである。が、それでも今なほ一種の民衆交易場として朝毎に小規模乍ら市が立ち、取引の喧騷さが、ひとしきり往時を偲ばすのである。

AHA ! trick-wrestler, Peking

單人摔角（ひとりすまふ）

さあさ皆樣　これより一番…東西東西…双葉に前田とひらき直ることはない、これは北京の愛嬌者、天橋とか什刹海の盛り場に現はれて、しがない一人相撲の藝を賣る。いかさま汚いボロ布を縫ひぐるみにした人形二つ。別に鳴物を入れるでなく見物少し集まるとみたら、これを被つて四ツ這ひになり、手足の捌きよろしく、さしづめ案山子の相撲と云ふところ、暫くしてのそりと顏を出し投錢を哀願する、その顏付がよい。フイリツプの小說にでも出て來さうな、哀れにもおどけた風情に、つい銅貨の二つ三つ投げてやりたくなる。

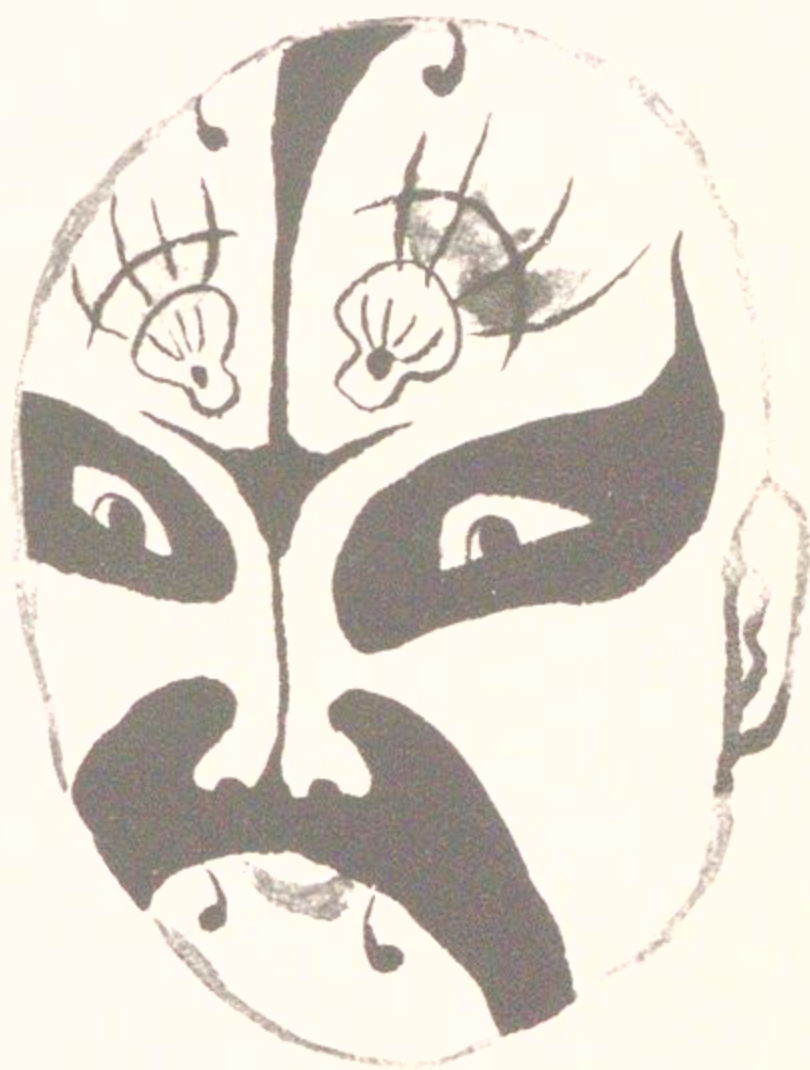
寫眞のやうに二つの人形は上半身だけ組合せたまゝ動くわけではない。これを被つて四つ這になれば、脊中の上で人形の上體はそれぞれしやんと立つ。ほんとの脚が一人分のそれになり、一人分の脚は、四つ這ひの本人の兩手が鞋をはいて代辨するのである。それで組んず解れつと云ふ具合にはゆかぬが、肱をつけば東の負、膝をついたら西の負と云つた調

子で、足掛から吊出し位の藝當はやる。どつと我身諸共倒れたら勝負あつたりで、どうぞや一文と顔を出す。下半身の手足捌きはなかなか要領を得たもので、上半身だけコテンとすました人形なのが却つてをかしい。

戰宛城の胡車

鄒氏は一度曹軍に降つたが、曹操が自分の嫂を弄ぶので怒つて夜討をかける。その前この力士胡車を利用して武器を盗ませる。道化た役で顔の眞中は半圓に白く塗つてゐる

長坂坡の張飛

愛すべき豪傑で亂暴したり色々失敗つたりするので獨特の隈取になつてゐる。主色は黑。これは「長坂坡」に出る張飛で、劉備の軍が曹操の軍に逐はれて逃げる途中大喝一聲敵軍を威壓する

戰長沙の關羽

張飛の兄貴分で、本來なら隈取をせぬ筈であるが、眞赤に塗るのは演義に赤ら顔してゐると書いてあるからしい。「戰長沙」では關羽が五百の校刀手を率ゐて魏の長沙を襲ふ

三國志の

支那芝居では隨分複雜な隈取を施し、それに約束の型があつて一見して劇中人物の性質が分るやうになつてゐます。但し役柄によつて隈取をしない――例へば老生（中年以上の男役で正善の人物）小生（色男役や年少の英雄など）武生（立廻を主とする役で武將俠客など）や一般に女役など脂粉で化粧するだけです。卽ち惡人や特殊の癖のある人物が大抵隈取をします。

隈取の說明は詳しく云へば大層面倒になるので略しますが、大體を述べると、白色で顏一杯に塗り細い黑線で描いたのは奸惡者（こゝに揭出した曹操は代表的）赤を主色にしたのは豪傑型（關の關羽）黑が主になつたのは善良であるが性質の激しい人物（關の張飛）その他各種の色で混入つた隈取をしたのは盜賊か陣笠的人物。金粉を使つたのは神仙か夷狄の人物です。尙隈取をした役者は面を被つたやうに見えますが、皆肌にぢかに描くので、

⇦献帝の宰相たる董卓權威を振ふ時、曹操は七星寶刀を提げて殺しに來たが果さず河南中牟縣迄逃げた時縣令の手兵に捕まつた。隈取は白地に黑の細い線で奸物らしい眼つき

失街亭の馬謖

⇨魏軍は街亭まで攻めて來た。守るは蜀の參軍馬謖である。孔明の吩咐をきかず、副師の諫も容れず敗れた。

く

…面に特殊の例外に他ひます。

さて、三國志は晋の著作郎、陳壽の撰で呉と魏と蜀三國の歷史を書いたもので、これに取材した小說の代表的なのが三國志演義（明の羅貫中の作）です。現在芝居にな

捉放曹の曹操

居一

まどり

つてゐるのは即ちこの演義に據るもので、藝題にして百を越える盛觀。毎日北京の戯院で上演される芝居に三國劇が一つもないと云ふことは珍しい程です。劇中に出て來る人物は英雄豪傑、奸雄美女その他、筋も變化に富んで面白いのですが、隈取だけ拾ひ集めると少しグロテスクになります。圖に示す坊主頭は鬚や冠物を除いて隈取をむき出しに描いたもの。（賓・中）

面を被つてゐるのではありません

定軍山の夏侯尚

建安二十三年魏の大軍蜀を侵す。蜀の老將黄忠奮發して魏軍を敗り、夏侯尚を擒にした。夏侯淵は尚の叔父に當るので蜀軍の捕虜と交換しようと申込んだが失敗し却つて殺された。二人とも武丑（半ば道化た武士役）で額の眞中を白く塗る

定軍山の夏侯淵

興亞記

大きな歴史・小さな歴史 一

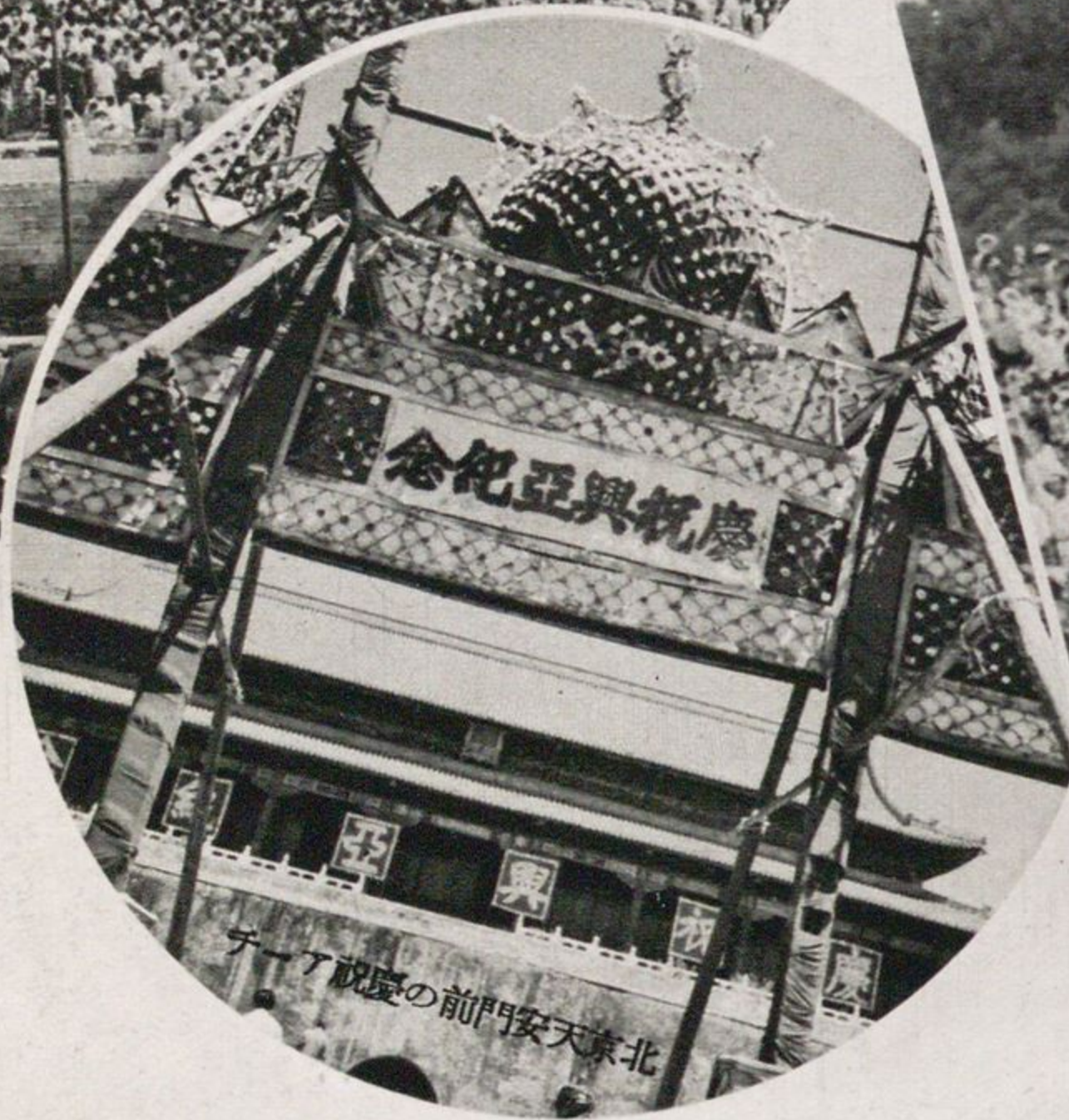
支那事變二周年當日、蘆溝橋畔一文字山に集つた八千の邦人居留民團

念週間

北京大和殿前の興亞民衆大會

北京天安門前の慶祝アーチ

事變殉亡者追悼會參列の中國女學生

建設東亞新秩序のポスター

大きな歴史・小さな歴史 二

▽七月三日から九日まで北京では全日本人を擧げて興亞記念週間を開催した。

官民各機關ともそれぞれ皇軍感謝、精神作興、體位向上、勤勞奉仕など各種行事を行ひ、なかでも一文字山大行進、傷病勇士慰問、市内行進、合同慰靈祭等は男女邦人を總動員して〃興亞〃の意氣を擧げた。

▽過ぐる七月七日、事變二周年記念日、興亞の感激は頂點に達した。この日、北京在留邦人は事變發端の地、一文字山で邦人大會を開いた。曉闇を衝いて宣武門を出發、思ひ出も深い廣安門から蜿蜒長蛇の列を作つて一文字山へ繰り出した在郷軍人はじめ官民各機關よりなる市民行軍部隊二千六百、鐵道によつて參集した男女邦人凡そ四千、北京、一文字山間驛傳競走の選手など總勢約七千の大群は一文字山窪地に集合した。一塊の石、一莖の草にも尊き聖戰の血は流れ、參集邦人齊しく廓然と襟を正し、〃二年前のこの日、この地〃に感激と感慨を新にした。大會は午前十時半頃から始まり、東方遙拜、事變一周年に際して賜りたる勅語奉讀、事變勃發當時の支那軍の情況説明等あつて今同慰靈祭を執行、續いて一同蘆溝橋の山野を壓して愛國行進曲を高唱、萬歳の轟とともに盛會裡に幕を閉ぢた。

▽興亞樞軸を一線に結ぶ北京・東京間三千キロの日華直通有線電話は七月一日から華々しく開業した。これに先だち六月三十日午前九時半から東京中央電話局、北京電々總局間に通話が行はれ、王克敏臨時政府行政委員長と田邊遞信大臣とのメッセーヂ交換をはじめ各方面の祝賀通話があり、引續き大阪、天津間も連繋され、こゝに歴史的〃日華聲の聯絡〃が完成した。

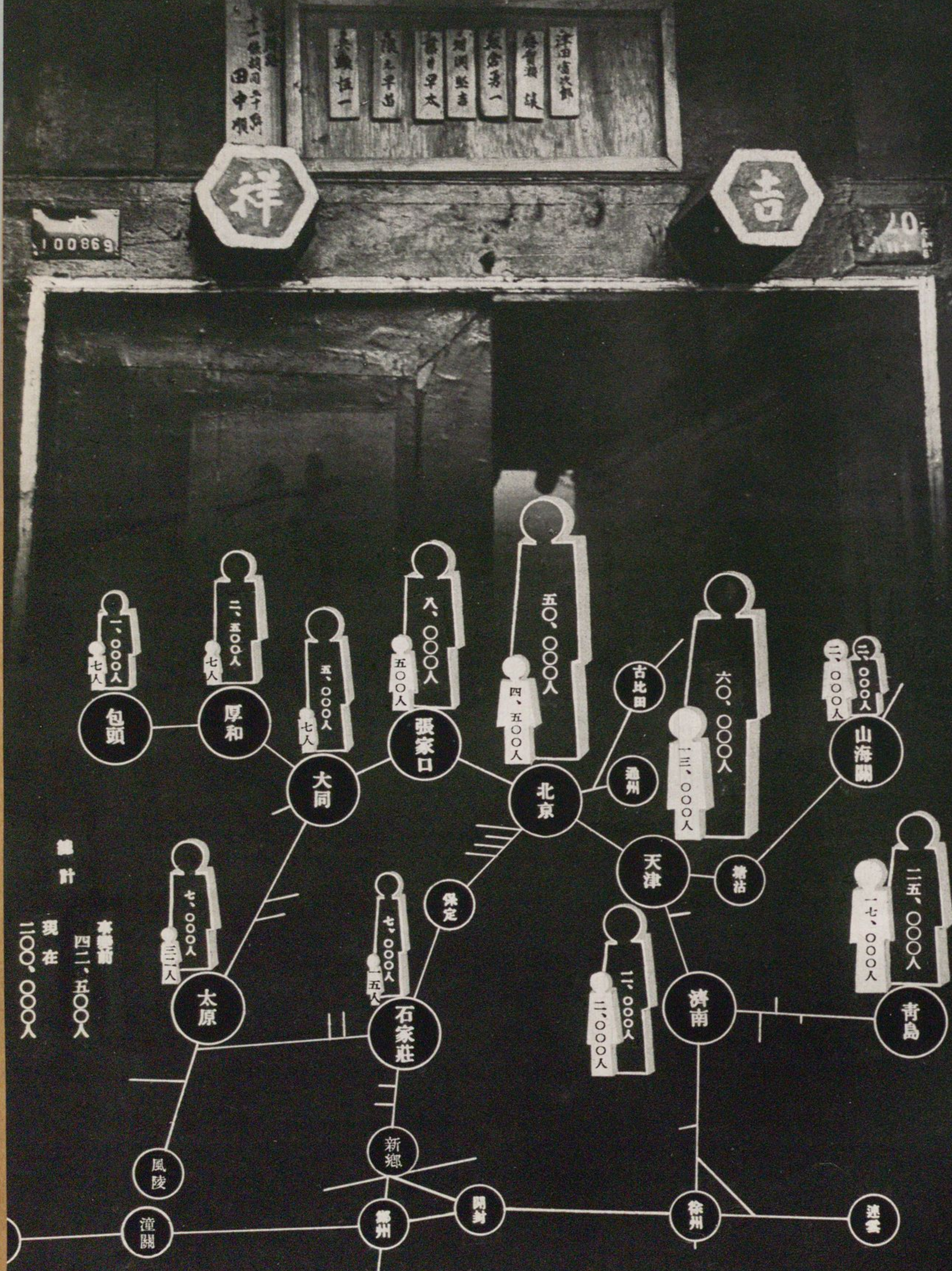
▽三億の資本、八萬の從事員（内邦人二萬）に固められた華北交通會社々員の家族と同社婦人社員を打つて一丸とし、大日本國防婦人會華北交通分會が生れた。七月五日華北交通本社前庭に分會員約一千五百が參集、前線婦人の意氣も颯爽と盛大な結成式を擧げた。

國防婦人會華北交通分會結成式、皇居遙拜

日支直通電話開通當日の北京電々總局交換室

華北交通社員婦人會の傷兵慰問

北支蒙疆主要都市邦人人口概數（事變前・現在）比較表

COMPARATIVE STATISTICAL TABLE OF GANANESE POPULATION IN NORTH CHINA

腸疾患にラクトスターゼ

ラクトスターゼは最近學會に知られてゐる乳酸菌三十餘種のうち代表的なもの、みを數種選び獨得の方法によつてその培養全部を包含せしめたもので、生活乳酸菌の外に大量の各種乳酸菌酵素、發育促進性ビタミン（ラクトフラビン）とを含有してゐる特色があり、味甘く、絶對無害性ですから乳幼兒にも安心して應用出來ます。

急性慢性下痢、腐敗醱酵性下痢、腸消化不良、乳兒綠便等に著效を奏します。

三〇瓦入（・八〇）
五〇錠入（・五〇）

說明書進呈

東京・日本橋・室町
三共株式會社

萬壽山

石橋丑雄

一世の女傑として清朝三百年の末路を華やかに彩つた西太后の崩後既に三十年、今北京の西郊萬壽山に殘る頤和園の大離宮こそは、實に此の女丈夫が社稷の興亡を他所にして其の豪奢極まる晩年を過された所である。

萬壽山も昆明湖も乾隆帝の時に人工て造られたものとして、眞しやかに說く人もあるけれどもそれは誤りで、萬壽山は甕山の名で、また昆明湖は太泊湖・西湖・西海等の名で既に元代から知られて居た。此の山が元來北方の金山から南に延びる紅石山に連つた小丘であつたことは玉泉山の上から見ると判然看取出來ると思ふ。甕山の名に就ては明末の諸書に其の緣起を記したものがあるが其の概要を見ると、

昔此所に居た老人が山麓に石甕の埋つて居るのを見て之を掘り出したが、其には蟲の模樣や龍の彫刻が施されて居つて、中に澤山の品物…寶物であらう…が容れてあつた。老人は悉く之を取り出して甕に『石甕徙・貧帝里』と豫言めいた字句を書き殘し、之を山の西麓に捨てゝ何れへか逃げ去つたのであつたが、其の後明の嘉靖初年に其の石甕が忽然行方不明になると、果してその頃から北京にも衰頽の兆が現はれて來た。云々

と云ふ樣な意味であるが、これに據ると其の石甕は今から四百年ばかり前迄は山の西麓に轉がつて居たものゝ樣である。

之より先き今を距る四百五十年ばかり前、明の弘治七年に助聖夫人羅氏と云ふ人の手によつて此の山腹に圓靜寺と云ふ寺が建てられたのであつたが、其後更に山前に仁慈庵と云ふ寺も出來たものらしく、明末の詩人の間には此等兩寺の風光を詠題に上せて居るものが多いが、明淸の交には圓靜寺は香火既に絕えて荒廢に歸して居たものゝ樣である。

然るに淸朝になつてから高宗乾隆帝は其の十四年に工部右侍郞の三和に命じ、其の結構布置を江南の名勝に取り此の山と水とを利用して離宮を造營せしめ好山園と名づけられたのであつたが、次で淸漪園と改め、更に乾隆十六年は帝の生母孝聖憲皇后六十の萬壽にあたる所から同十五年工を起して圓靜寺の舊址に大報恩延壽寺を建立し、山の名を改めて萬壽山とし西湖を開濬して玉泉山の水を引き、昆明湖の名を賜ふた。山の名の萬壽は皇太后六旬の萬壽に因んだものであることは勿論であるが、昆明湖の名は西漢孝武帝の元狩三年に、水軍調練の爲め雲南の昆明池に象つて、長安の西南三十里の地に昆明池を穿たしめた故事に基くもので、當時湖内には戰船を設けて閩廣巡洋の制を模し、京西藍靛廠火器營の八旗を此所に集めて水戰を演習せしめたのであつた。

此の大報恩延壽寺は實は一大喇嘛廟で今の排雲門の一郭に建てられて居たのであつたが、當時の規模を考察して見ると、淸漪園冊の中に

慈福樓の西を、大報恩延壽寺と爲す。前を天王殿となし、鐘鼓樓となし、内を大雄寶殿となし、後を多寶殿となし、佛香閣となし、又後を智慧海となす。大報恩延壽寺の西を羅漢堂と爲す。田字式にして後を寶雲閣となす。云々、

とあつて、此の慈福樓は今の萬壽山昆明湖の大碑下に在つて「大自在」の額

内容

が掲げられて居たと云ふから、觀音大士を供した所であらう。そして大報恩延壽寺の山門は即ち今の排雲門で、當時は乾隆帝の御筆に係る「大報恩延壽寺」の大額が掲げられて居つたのであつた。門內の東西には鐘樓と鼓樓があつて池を渡つて石階を登つた所には天王殿が在り、其の後方に一段高く大雄寶殿が建てられて居たのであるが之が即ち今の排雲殿の位置である。又其の後方には多寶殿が今の德輝殿の位置に建ち、其の上の基壇には佛香閣の九重の高塔が巍然と聳えて、最後に衆香界の瑠璃牌樓を前にして智慧海の大佛樓が配せられて居た。それから排雲門內の西にある淸華軒の一郭は即ちもとの羅漢堂の舊址で、軒後に保存せられて居る羅漢堂記に據ると、此所の五百羅漢は錢塘の雲林・淨慈兩寺のものに模倣したもので、堂の建築樣式は田字式であつたと云ふから今の西山碧雲寺や熱河の羅漢堂と略ぼ同樣の立派な內容を有したものであつたと思はれる。

　此の大報恩延壽寺の創建に續いて山前山後から湖畔にかけ、大小各個の建物が造營せられたのであつたが、當時は大體に於て此の大報恩延壽寺を中心とする山前の大喇嘛廟と、須彌靈境を中心とする山後の大喇嘛廟とが前後の核心となつて居た。即ち萬壽山淸漪園は斯うした兩喇嘛廟を中心とする大離宮として榮え殊に乾隆五十七年の大重修は更に面目を一新して、金頂朱欄湖面に映じ、高閣廻廊樹間に隱見して輪奐の美を極め、近くには圓明・長春・萬春・暢春等の諸園の離宮が眼下に連り、遠くは玉泉山靜明園より香山靜宜園の兩離宮が一眸の裡に集まる景勝の地として、天子萬機の餘暇を好んで駐蹕せられたのであつたが、今より約八十年前、咸豐十年十月北京に侵入した英佛聯合軍の毒手は、此等の諸離宮を擧げて一炬灰燼に附するの暴狀を演じた。

　即ち十月六日の圓明・長春・萬春三園の掠奪燒毀に續き、翌七日には約二百の英兵が此所に闖入して掠劫を恣にした上、炬火一閃さしもの名園も忽ち烏有に歸したので、これは實に我が萬延元年櫻田門の變の年にあたり西太后二十六歲の秋で、當時幸に火を免れたのは衆香界の瑠璃牌樓と、萬壽山昆明湖の大碑並びに寶雲閣の銅亭くらゐなものであつたが、斯うした諸離宮の燒毀の噂は當時日本にも傳はつて、其の結果は彼の外國船打拂令の實行の上にも影響して居る樣である。

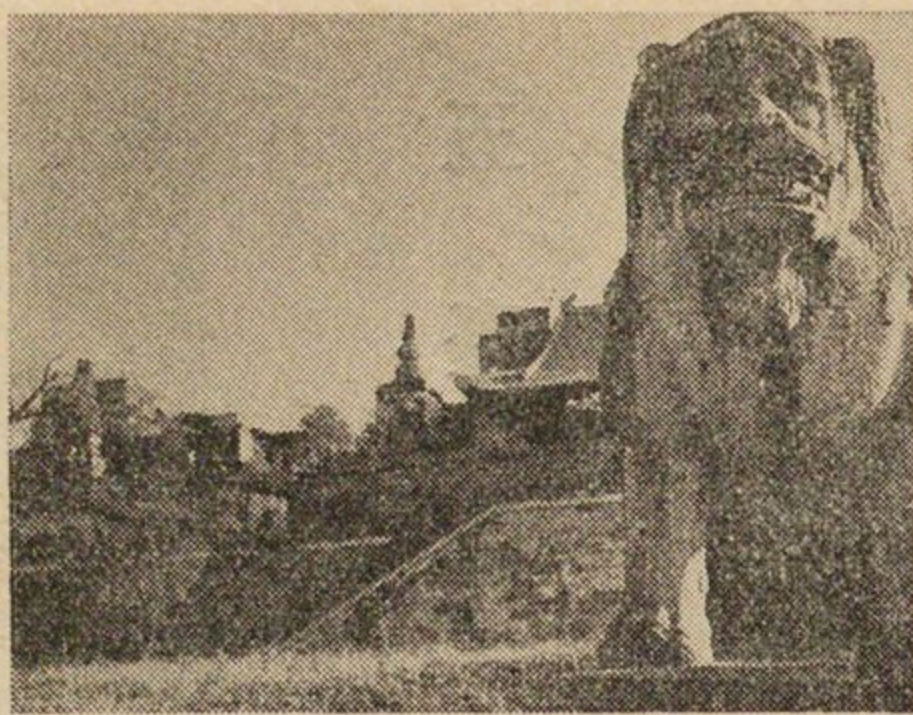
　斯くて爾來約三十年間、此の園內は只瓦石累々として狐狸其の間に跳梁し陰火飛ぶ大廢墟となつて居たのを光緖十四年西太后は海軍擴張費約三千萬兩を投じて重修の工を起し、乾隆の舊址に據つて之を復舊し、名を頤和園と改めて夏季駐蹕の離宮に充てられたのであつたが、此の重修に於ては淸漪園當時の舊址は努めて之を利用せられたので、現在の建物は其の規模こそ乾隆の舊に比して劣つて居り、又中には其の名を改められたものもあるけれども、其の布置は大體に於て昔の儘であると云ふ。

　然るに其の後光緖二十六年に勃發した北淸事變に際し、此處は露・英・伊の三國軍に占領せられ、洋兵の駐留年餘に及んだ爲め、又々其の狼藉掠奪を蒙り荒廢甚しきものがあつたので、光緖二十九年に更に大修繕を加へ、爾來西太后は一年の殆んど三分の二を此所に過されたのであつたが、當時太后の駐蹕中は離宮の經費として毎日一萬兩の銀が北京から此所に現送せられて居たとのことである。斯くて太后の崩後間も無く民國になつてからも此所には淸室から監理官を派せられたこともあつたが、民國三年からは入場料を徵して之を開放したけれども、此の園內は故宮と共に民國十三年末迄は宣統の正朔が奉ぜられて居たのである。

　現在正門になつて居るのは東宮門で門の內外には、兩側に朝房が連つて居る。此所を入つた正面の仁壽殿は、乾隆勤政殿の舊址に建てられたもので、光緖皇帝の太后を奉じて政務を見られた所であるが、正中の玉座は即ち西太后の寶座で、皇帝皇后の寶座は其の兩側に質素に設けられて居る。孝道を以て至上道德とする風習が此所にも現はれて居るのである。壁際に積まれた書籍は欽定圖書集成で其の前に陳列された大花瓶古銅器等の中には日本製七寶の花瓶もある。殿前の月臺に安置せられた龍鳳銅缸等は西太后當時の製作に係るもので、何れも「天地一家春」の五字を刻してあるが其の作は甚しく見劣りがする。

　此所を見て左手に廻ると西太后當時に用ひられた發電所の隣りに、一世の高士として仰がれる元の宰相耶律文正公の墓がある。前方の祠堂に塑像を安置し其の後方に封土があるが、斯うして墓を建物の中に設けたのは珍らしい例で、之に類するものとしては滿洲東京城の西北に近い三靈屯の渤海古墳がある。此所から出て、湖畔に立てば昆明の淸波眼前に展開する彼方に西堤の柳葉微風に揺る丶ところ幾多の橋梁其

の間を點綴して、身は宛然江南の客となつたかの感があるが、之は乾隆の皇太后が蘇州の景色を愛でさせられた關係から、帝は特に斯うした江南の景致を仿して造營せられたのであつた。

此所を北に行つた玉瀾堂はもと光緒皇帝の便殿に充てられた所で、東の一室は帝の寢所として常に用ひられた所である。また其の兩廡の窓近く設けられた磚墻は彼の光緒二十四年康有爲の變法自强の政策を實行せむとして捲き起された戊戌の政變に、皇帝を此所に一時幽閉した時に、其の外部との連絡を遮斷する爲に急造せられたもので、皇帝は其の後間も無く南海の瀛臺に遷されて、引續き幽囚の身を喞ちつゝ數奇な晩年を終られたのであつた。玉瀾堂の後方に續く宜藝館は光緒皇后の便殿として用ひられた所であるが、其所から玉瀾堂に通ずる門も亦當時堵塞せられたまゝで殘つて居る。

裏萬壽山石獸と廢墟

宜藝館の西の一郭は卽ち樂壽堂で西太后燕寢の場所に充てられた所、其の前方湖岸に近く立つ大アーチは當時アーク燈を掛けて、東西兩廊の小窓と共に湖面を不夜城に照らした趾である。堂內正面には西太后の寶座が安置せられ、其の東室は供佛の場所に西室は起居の場所として用ひられたもので、當時の寢室や化粧具等も其の儘に殘つて居る。堂內や兩廡の陳設は非常に洋式化されて居る樣であるが、これは太后の晩年が漸く歐米人との接近が多くなつた關係からで、英佛の言葉や儀禮に通じた德菱・龍菱の姉妹が特に召されて奉仕したのも當時のことで、德菱の著に成る 'Two years in the forbidden city'（淸宮二年記）は太后の晩年を知る好資料の一として有名である。また後堂は太后の調度を藏した所、其の東の一郭は太后の寵を一身に集めたと云はれる有名な太監李蓮英の住んだ所である。

堂西の邀月門から續く二百七十餘間の長廊は其の延長約七百米に達し、簷下に描出されて居るのは西山から北京にかけての色々な四季の景色である。門西の養雲軒は西太后駐蹕中女官たちの休憩所に充てられた所であつた。

長廊の中央に當る排雲門は離宮の正殿排雲殿の門で、此の一郭は既述の通り大報恩延壽寺の舊址である。殿內にはもと米人畫家カール女史の畫いた西太后の肖像畫が奉安されて居たが、熱河の聖戰最中に他の珍寶と共に南方に劫運せられてしまつた。後方に聳ゆる佛香閣は舊喇嘛廟時代の基壇上に建てられた關係上、上下多少不調和の觀があるけれども、德和園の大舞臺や天壇の祈年殿と共に木造高層建築の白眉である。其の西の寶雲閣は全屋悉く銅のみで造り、寸木をも用ひざる特殊建築で、乾隆二十年の勅建に係り、熱河離宮に朝鮮王から獻納したといふ殊源寺の銅屋と共に珍らしい建物である。

長廊を西に行けば、淸宴舫の前に出る。卽ち乾隆の石舫で西太后の時洋式樓を上に設けて今の形になつたものであるが、此の裏の船塢附近には太后を始め帝・后の御船や、曾て我が川崎造船所から獻上した外輪汽船なども殘つて居る。

此所から裏山を廻るとかの英佛聯合軍に燒き拂はれた須彌靈境の舊址に出る。卽ち俗に後大廟と稱せられた大喇嘛廟で、西藏式の紅臺の間に數個の喇嘛塔が立ち並んで殘つて居る所、遙か東北の眼下に展開する圓明園の大廢墟と共に當時の盛觀を偲ぶに足るものがある。

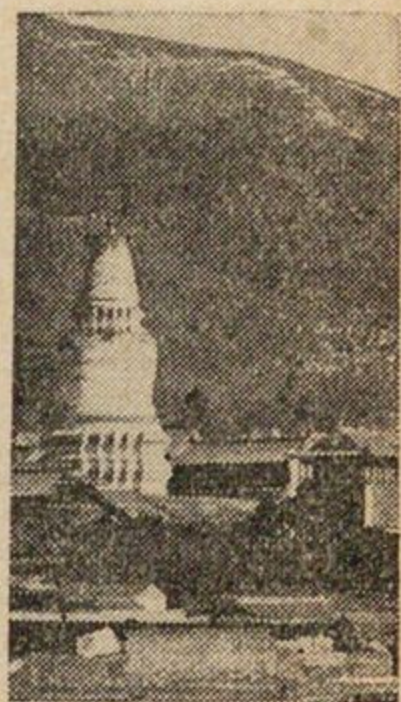
殊に此の邊は遊人極めて稀に、山麓をめぐる後湖の畔には、老松古栝參差として天空を摩し、四圍の俗響松籟に吸はれて、夏なほ涼味を覺ゆる幽邃の淸境である。廢墟の間に立つ花承閣の瑠璃寶塔を見て山上にのぼれば、西太后觀月の場所に充てられた景福閣があり、此所から諧趣園の別郭を見て山前に出で、德和園の大舞臺を仰いで仁壽殿の前に出るのであるが、また石舫から船を利用して湖上を玉瀾堂に歸るなり、或は湖中の龍王廟に上陸して十七孔橋を渡り、湖畔の銅牛を見つゝ東堤を散步するのも趣きのある行き方である。殊に昨年からは定期運行の乘合バスが出來、龍王廟の中に萬壽山ホテルが開設されてから、都塵を避けて一泊する人が非常に多くなつた樣である。

備考

一、光緒の年數に七を加へると明治の年數になる。

二、西太后の年齡は光緒の年數に四十を加へたもの。

三、西太后は咸豐帝の妃で同治帝の生母。光緒帝の伯母（母の姉）。宣統帝の從祖母（祖母の姉）。

台懷鎭の白塔

五臺山

立野信之

五臺山に赴くには、太原から北部同蒲線で北上し、忻縣といふ所で閻錫山の生れ故郷である河邊村行の汽車に乘換へる。河邊村から先は――事變前の旅行者は何で往つたか知らぬが――いまは兵站のトラックが一日一回定時に五臺縣城まで通つてゐる。或は兵站の都合で、五臺縣城から六里(?)先の豆村鎭といふ部落まで行ける。それから先は、私は幸運にもトラック隊の初乘りに便乘して台懷鎭まで一日行程で赴いた。だが、トラックで登るのはその時が最初でそして最後である、といふことだつたから、現在は一日に一回か或は二日に一回登る輜重隊の尻について、途中二泊三日の行路で登らなければならぬだらう。なぜなら五臺縣城から五臺山(台懷鎭)まで、登りだけで恰度二十里の難行路だからである。

實際、この二十里の難行路は、歩いて登つたら時間のかゝるのと勞力さへ我慢したら、さう危險は感じないだらうが、トラックで初乘りだけに、途中何度か千仞の谷底に轉げ落ちるやうな劍呑さを感じさせられた。往けども往けども黄土と岩石の裸山の重りで、道はその裸山の中腹を帶狀に縫つてゐるのであるが、片側にはいつも水のない岩石だらけな河床が太古さながらの姿で、白い歯をむいてゐる。一歩あやまれば、われわれはトラック諸共千仞の谷底に呑まれてしまはなければならない。

しかもその道たるや、一町置き或は十町置きに第八路軍が決潰してある。なぜ一町おき或は十町おきであるかといふと、第八路軍は決潰場所を、いつも岩山が片方に迫り、片方には千仞の谷が歯をむいてゐるやうな、急曲(カーヴ)の個所を選んで破壞してゐるからだ。

決潰個所は、糧秣の輸送車輛を通すために、すでにわが工兵隊の手によつて修理されてあつた。だが、それは單に輜重車輛を通す目的で應急修理されたのであるから、大型トラックが通るには甚だ無理であつた。一臺が通ると折角積みあげてある石が崩れ、二臺目以後の車は通れない。

その度毎にトラック隊の隊長は、

「全員降りろ！」

と命じ、自分達の手で再修理しなければならなかつた。さういふ時、よくトラック隊は第八路軍の襲擊をうけ、思はぬ大損害を蒙ることが屢々ある。第八路軍は、近代的に整備された軍隊ではなく、機械化された日本軍との間には、百年の開きがある。彼等は謂はば「素足に素手の軍隊」であつて、日本の部隊が往けば分散して山中の何處にでも逃げ、そして何處にでも現はれる。殊に、私が五臺山に登つた頃は第二次作戰が始まつたばかりで、第八路軍は日本軍に追ひ廻はされて、窮鼠のやうな恰好になつてゐたから、何時どこに現はれるか分らない。それだからわれ〳〵のトラック隊には輕機をもつた二ケ分隊の警乘兵がゐて、トラックが決潰場所にひつかゝつてエンコすると、さつそくその警乘兵がバラ〳〵と飛出して、二、三百米先の小高い要所に登つて警備の位置につく。そこで私達は、第八路軍の襲擊の幻想におびやかされつゝ、私自身も全員の一人となつて、石運びをやつた。汗みどろになつて、夢中でやつた。

私の五臺山行は、先づそんな具合に行はれたのであつた。

○

五臺山と一口にいふが、嚴密にいふと、五臺山といふ山はない。東臺、南臺、西臺、北臺、中臺――の五つの山が相抱くやうな恰好になつてゐるのを總稱してさういつてゐるので、その中心に盆地があり、そこに喇嘛寺が集まつてゐる。そして其處は、台懷鎭とよばれてゐる。

台懷鎭には昔は百いくつかの寺があつたさうであるが、現在は六十いくつに減つてゐる。もつとも六十いくつの寺が全部台懷鎭にあるわけではなく、南臺や北臺の頂上の所々に、雲邊に白塔が白く輝いてゐて、遠くからそれを仰ぐと、いかに昔の事でそして勞働力の安い支那のことだとはいへ、こんな山また山の中に、よくもこれだけ宏壯な寺院を建てたものだと只々感心させられる。

五臺山には、昔わが國の弘法大師や慈覺上人が修業にきたといふので、日本でも有名らしい。それが若し事實だとすれば、交通の便のない大昔に、日

本からはる〴〵五臺山まで修業にきたといふことは、それだけで大したことである。日本の兵隊が南臺の麓の何とかいふ寺へ行くと、汚い風態の喇嘛僧が「弘法大師御修業處」と書いてくれるさうだが、別な何とかいふ寺に行くと、そこでも「弘法大師御修業處」と書いてくれる由で、實際にはどの寺で修業したものか判然せぬらしい。

それよりも五臺山が我々の興味をひくのは、嘗て——三年まへに、現在山西中部の潞安平地で皇軍の包圍攻擊をうけてゐる朱德等の共產第八路軍の本營がこゝに在つたことである。傳へきくところによると、朱德はこの佛教聖地にやつてきて、「宗教は阿片也」の公式通りに、寺々を燒拂はうとした。

すると此處の「活佛」のある者が、敢然とそれに答へていつた。

「どうぞ勝手に燒拂つて下さい。ただ此處にある寺を燒拂つたところで、支那四億の民衆の生活にしみこんでゐる佛教は亡びない。そして佛教信者たちは、貴方がたの軍隊が、五臺山を燒拂つたといふ事を、長く記憶するでせう。」

さすがの朱德もこれには返す言葉もなく、寺院を燒拂ふことを止めて、此處に暫く本營を置いてゐたらしい。その頃アメリカの女流作家アグネス・スメドレが五臺山に朱德を訪問し、第八路軍從軍記を書いてゐるのも面白い。

昨年の十月、我が軍は一度五臺山を占領した。が、この交通不便な山中に長く駐屯してゐることが出來なかつたので、一度撤退した。すると、賀龍等の第百二十師、第百二十九師、新編第二師等の共產軍が、また五臺山を占據し、山西北部の遊擊戰術の本據と化したので、今年の五月再び我が軍は五臺山を攻略し、今では完全に共產軍を追拂つた。日本軍は前の撤退で懲りて、こんどは半永久的な陣地をつくり、警備してゐる。日本軍の手厚い庇護で、一時北京に避難してゐた「活佛」たちは最近五臺にかへつた。

每年六月（？）が、五臺山のお祭りださうである。が此處に三年ばかり戰爭さわぎでお祭りはなく、遠く蒙古や西藏や支那各地から雲集してゐた參詣人も跡を絕つてゐるので、台懷鎭は火の消えたやうなさびれ方である。ために千人もゐる僧侶たちは生活難に晒されてゐるらしく、乞食坊主のやうな汚い僧衣をまとひ、瘦せさらばへて眼ばかり光らせてゐるのが多い。そして現在では、日本の兵隊から貰ふ殘飯が唯一の食料品らしく、警備隊本部炊事場の裏で、二十人あまりの僧侶が石疊に腰かけて、手づかみで殘飯をむさぼり食つてゐたのを私は目擊した。「勅建五臺山文殊菩薩淸涼勝境」の地も、ひとたび戰禍の巷と化すると、かくの如きお寒い風景にならざるを得ない。

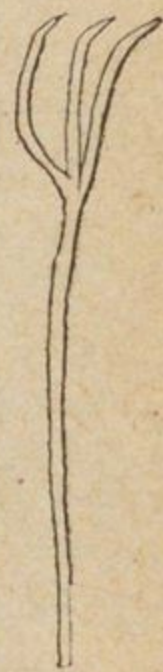
しかし現在は皇軍の新銳部隊によつて、聖地はそつくりそのまゝ護られてゐる。もう第二の弘法大師や慈覺上人が修業に行つても差支へない。

僧侶たちはいつてゐる。

「日本軍はよい。なぜなら日本人はみな佛教信者だから佛堂に發砲しないし何よりも自分で糧秣をもつて來る。」

糧秣を徵發されることは、どうやら寺を燒拂はれるよりも怖いらしい。

○

台懷鎭で一番大きい寺は顯通寺である。山門を入るとすぐ左手に「宗教學院」があつて、十人あまりの乞食の子のやうな子供たちが、小さな經机の前に胡坐をかいて、一人の僧侶から蒙古文字の讀方を習つてゐた。多分この汚い子供のうちの何人かゞ、何年かの後には「活佛」となつて崇められるのだらう。——顯通寺の上の喇嘛寺に、有名な歡喜佛がまつつてある。等身大の男女抱合體の佛像は、美術的にも優れたものであるらしい。

北支の農村

みづの・かほる

三、部落と村長

前回に述べた部落の集團は、決して形ばかりの集團ではない。外敵の防衞に對して協力すると共に、内にあつても渾然一個の共同體である。資本のかかる荷車、粉ひき場の共同使用や、井戸の共同使用、貧乏人同志が驢馬一匹をもち廻りに飼育したり、隣同志が種物や食糧の融通をしたり、勞力の手間換へと言つたやうに、互にもちつもたれつ生業を營む。大水で堤防が切れさうだと言へば、部落總出で鍬をかついで駈けつけ、ひでりだと言つては、部落中のものが集つて雨乞ひをする。

部落がかうした共同體である所以のものは、北支農村一般の部落が一族或は數族からなつてゐて、一部落が血族的に結びついてゐることにある——ただ都會附近の農村や、災害の激しい黄河の沿岸地方の如き有爲轉變の地は、この例にもれるものもあるが——。

部落民は、この一大家族的集團の中に釀す部落愛（?）に浸つて、貧しさにも勞苦にも堪え乍ら人生を刻んで行く。十何代或は二十何代と續いた古い家を誇り、祖先の墓を祀つて、猫額大の土地を耕しつゝ、細い煙を立てゝ、又その祖先の墓場に祀られて行くのが彼等の願ひであるかのやうに見える。

部落民は吉凶禍福を共にする。部落に死人があつたり、結婚があつたりすると、部落民はあげてそこに集ひ、共に悲しみ共に喜び合ふ。

北支の農民は平和を愛好する。而し彼等の平和は、積極的に平和を求めようと云ふ努力や、打開の道を講ずるといふやうなことには缺けてゐる。極めて保守的な偸安的な平和に甘んじてゐるのである。腹が充ち足りて、その日が安穩にすめばいゝのである。

又人との鬪爭も好まない。前回の畑の境界を爭はないと云ふこともその一例ではあるが、第一、部落内では殺人事件などといふことは非常に稀であつて、兵匪の襲來でも無い限り、こんな不祥事は絶對に起らない。

彼等は信義を重んずる。支那人の日頃いふ面子（メンツ）である。面よごしをしたものは、部落には住めないのである。

北支の農村は隨分と疲弊してゐる。農家で借金してゐないものは少く、その半數は平均五十圓位のものをもつてゐるだらう。五十圓といふと、日本人から考へれば少いやうであるが、一戸一年の總收入百五十圓から二百圓位の農家にとつては大金である。その金をどこから工面してゐるかと云ふと、半ばは部落民同志が借り合ひつこをしてゐるもので、あとの半分位は縣城の資産家なり、他部落の富農あたりから借りてゐる。ところがその借りた金といふのが殆んど以前のものは信用借りであるが、還す還さぬと言つたやうな爭は絶對に起さぬ。こゝに又美しき部落民の面子があり、口約を守るは彼等の信條であると共に部落かたぎである。

かうした部落かたぎは、都會を離れるほど濃い。これを打ちこはして行くものは、日本でも同じやうに出稼者と遊學の徒輩である。勿論彼等によつて文化の氣風を移入され、部落民を眼ざます大きな役割をもつことも否めないが、逆に又良風美俗をそこなふ點から言へば、功罪相半ばしてゐると言へるであらう。

部落には保甲制度の名殘りが、多少に拘らず存在してゐる。所謂五人組制度であつて、昔から部落の自治防衞の爲に作られてゐたもので、これが形に現れた部落内の組織になつてゐる。

部落には、別に村長或は鄕長があつて部落を統制する。村長には、昔は部落の一族中から、名望ある者が選ばれて來た。それに村長の仕事と言つても所謂部落のお父さん役であり、相談相手である。農村の平和な時代には、この村夫子然たる村長さんが立てまつられて、部落の何事も村長さんにもつて行つて、解決してもらつたものだ。

村長さんは又部落中のもの知りで、文字を解し、手紙や證文の代書もし、時には論語の一節も讀んだりして、あきめくらの部落民を敬服さす。或は時には部落の私塾の先生役もつとめると言つた具合である。

しかし世が亂れた今日では、もうそんな呑氣な村長さんは見ることが出來なくなつて、村長の役目は、全く御苦勞な役目になつてしまつた。

部落では税を納める。國家への上納はあたりまへのことであるが、これとは別に軍閥や匪賊から、何時なん時搾りとられるかもしれない。而もこの方が大變である。或は金錢を、或は穀物を、或は馬糧を、或は耕馬を、或は壯

丁をと、或は又匪賊が襲ふ、それの買收に金員を投げ出すこともあらう。この場合いつでも、村長が部落の責任者として立ち働かなくてはならぬ。

かうなつては村長さんもゐたゝまらない。村夫子然たる人物ではつとまらない。むしろ三百代言のやうな男でないとらちがあかない。人格も何もあつたものではなく、目に一丁字無くても心臓が强ければいゝわけである。そこで、いゝ人物の村長が隱退してしまつて、ろくでもない男が、部落にはびこる。グレーシャムの方則は金錢ばかりではない。世が亂れるといゝ人物の村長が雲がくれするといふのも、この名法則にあてはまると言へる。

かうなると、村長さんの役目も、部落のために盡さうといふ氣持は無くなつて、どうすれば村長の責任をうまく逃れることが出來るかと、ずるい考へばかりが先に立つ。しまひには村長のなり手が無くなつて、廻りもちをやつてゐる部落さへある。これも數ケ月とか半年位ならまだしも、ひどいのになると、一日置きに代ると云ふやうな、出鱈目の村長さんも出來て來る。これは事變下のある地方の實話であるが、こんな戰國時代のやうな農村では、又無理もないことではある。まだ村長さんがたとへ名ばかりでもゐるのはいゝ方で、治安の甚しく惡い地方へ行くと部落の富農や、目ぼしい人物は、この危難を避けるために、都會の安全地帶へ逃れて、あとにとりのこされた部落は、頭目の無い統率者の無い部落民どもが迷ひうごめいてゐる有樣である。

匪賊の交渉相手は村長であることは前にも述べた通りである。匪賊は部落へ無理な要求をふつかけて來る。それが若し果たせない場合には、その責は村長の首にかゝる。かうして村長は部落の悲しき犧牲者として、人質にされたり、首がとんだりすることは不斷にある。これでは村長の役目も命がけである。

村長は名譽職であり、有給のものは殆んどない。前述の兵匪の徵發(兵差)は、村長のもとに、多くの場合部落民の所有地に比例してふりあてられるのであるが、常時の部落費も亦村長の手に於て、同樣に決められ徵收される。

部落費の會計は、その收支を明かにして年に一回公開され、この收支表は部落の大通りに張り出される。張り出された紙が一夜の內に破れた場合は、それに不正があるのだと、部落民は云ふ、しかし、村長の私腹中飽は一般には見られない。所謂村長の役德は、殆んど無いやうである。

村長が一年間に公用に費される日子は、大抵四、五十日位のものであるが世が亂れると村長の役目は目が廻る程多忙を極める。だから村長はその日稼ぎの貧乏人には勤まらない事になる。

さて、最近澎湃として起りつゝある合作社運動が、この部落共同體を再建し、更に一步を進めてこれを經濟的に運營し、農村の振興に寄與しようとしてゐる。部落結合の素地は、すでに備つてゐるのであるから、これに一擧手一投足の勞をかけ指導して行けば、この運動もたやすく進展し、成果も擧げ得ることゝ思ふ。

たゞ悲しいことには、部落民には、國家的觀念が極めてうすい。彼等の世界が部落を出でないのである。部落が彼等の國であるのである。もつともこれも無理もないことだと言へよう、國家は、部落民に何一つ與へるものなしに、一方的に捲つてばかりゐるのであるから。むしろ稅金をとられてゐるので、國があることを知らされてゐるのかもしれない。筆者は思ふ。部落民が與へられることによつて國を知り、更に部落々々が相携へ結んだ時に、眞に輝かしい農村が北支に現出するのだと思ふ。

大陸への旅

近藤春雄

數へてみると、私は二年毎に大陸を訪れてゐる勘定になる。

北支行も、だから一昨年の二月が第一回で、今度は二回目に當るワケであるが、この間、日支事變といふ大きな變革を挾んでゐるから、印象として得た風貌にも自から格段の相違があることも當然なことである。

甚だ月並な表現だが、私は北支が、殊に萬壽山近郊を中心とする風物がこの上なく好きである。

翠巒を背景にそゝり立つ排雲殿・德輝殿・佛香閣等々の金瓦朱柱が、昆明の湖に泛び映えてゐる景色は、恐らく世界の美觀の一に算へられてもいゝであらう。

曾つて歐米に旅した私は、各國夫々に於ける、景色の美觀の數々に接したが、そのいづれもが、かくまで心弦にふれ、詩想をゆり動かしはしなかつた。

惟ふにこれは、私たち東洋人として天性的な美感覺が、西歐のそれをそのまゝ享受し難い結果でもあつたらう。

東洋藝術の一母胎としての支那美術――建築・工藝――の總てを通じて、私たち日本人には、到底西歐のそれが及びもつかぬ接近的親しみのあることは、かうした素朴的な感銘からも首肯けることである。

前後二回の北支行で、私は、かうした事實を更に裏書きされたが、今回はその接近的な親しみが、更に身近に等しくわれわれのもの、東洋民族共有の文化財として、その享受を一層氣易くさせてくれたのは、日支事變を楔機として出現した明朗北支のお蔭である。

萬壽山の階段に立つて、それこれを思ひ合せるとき、私の胸は、今更乍ら一段の感慨に打たれるのであつた。

◇

ひとり北支に限らず、今日われわれ日本國民の間に、大陸といふ二字は、最早、日常的な常識でなければならぬと考へる。

經濟的國防的意義からの日滿一體、更に全般的政治性から言つての日滿支の提携を基礎とする新秩序の樹立、等目標としての理想型を表現するスローガンは、徒らに觀念の空轉に終止してはならない。その意味からいつて、政治、經濟、文化各般當路の人々のみならず、一般國民も亦、あらゆる機會に於て、滿、支、蒙各地を遍歷して、その躍進的鼓動と、新生命の息吹きに觸れ、躬をもつて、大陸を常識化せねばならぬと考へる。

◇

一體に日本人は、旅行に對してひどく憶劫がり屋であり、出不精である。その結果として、國內的にいへば、都會人と農村との隔離、それからくる文化の都會集中と從つて普及の偏重等が一層劇しいのであらう。これは極めて平凡な事柄の樣であるが、一國の文化の全體的伸長の上には、頗る大切なことだと思ふ。まして、日滿支一丸となつて新東亞建設の現今のいま、かうした憶劫さや出不精はさらりと捨てゝ、どしどし進出することである。

視察とか見學とか、一應鹿爪らしい理由を附さなければ旅行出來ぬことは洵に不便であり、不幸でもある。そんなことは、田吾作議員の常套にまかせて、一般の人は、もつと氣輕に出掛けることだ。

やがて夏になれば、恐らく隨分と遠慮しながらも都會人は避暑とやらに出掛けることであらう。東京人にとつての輕井澤、逗子、鎌倉其他々々――おお、なんと非時代的な語韻であらう!!

星ヶ浦、松花江は言はずもがな、北京に蘇州に、心機一轉と大陸認識の一石二鳥三鳥かけての滯在旅行も乙ではないか。

ナチス獨逸の躍進の背後に、獨逸人の旅行好きによる祖國認識の力がどれ程與つて大なるものあるかを思ふ時、日本人の大陸旅行は、それにもまして重要な意味を有つであらう、從つてそれは單なる觀光とは別な意味を有つ。

日・滿・支・蒙關係當局もこの點に留意して、大陸へのよき旅行者の獎勵に努力して欲しいものである。ツウーリスト・ビユーローは、だから、單に旅行斡旋局であつてはならない、それは文化交流と祖國認識のための協力者とならねばならぬのである。

（一四・六・一二、黑龍丸船上にて）

可園雜記 四

加藤新吉

北京天津は六月盛暑、七月雨季に入つてまた特別の蒸暑さに惱む。物持は夏に先だつて院子や屋根に丸太を組みアンペラを張り、雨天曇天にはその天井を捲開く大仕掛な日覆を造る。之を天棚といふ。室は密閉して昧爽の凉を入れるだけに窓を開く。紙張の窓障子は克く外氣を遮つて室内は凉味親しむべきものがある。新來の日本人が採光通風を旨として所謂衞生的に改造した家はこのところ御難である。

京津は暑いといつても濟南、上海、漢口に及ばない。漢口では春に蚊が出て夏は居なくなる。水が沸くからだといふ。印度人は避暑旁々故鄕に歸るといふ。その眞僞は知らないが、問題の天津外國租界人が留守を日本に頼んで凉しく海岸に避暑して居るのは事實である。彼等ばかりを凉しがらせてよいものか。今年は阿片戰爭百年目、彼等の年貢のよき納めどきである。

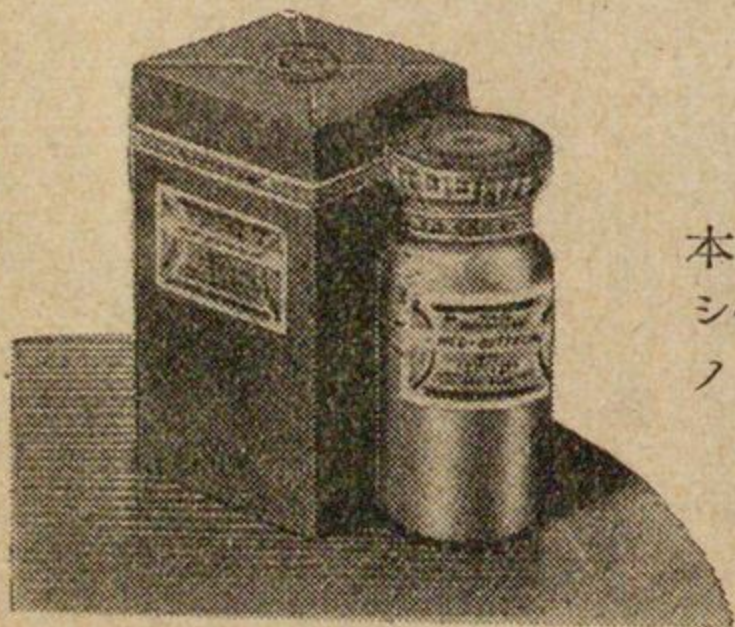
北京の交民巷——外國公使館區域も一種の租界である。こゝの車夫は市中のとは別の鑑札をもち、高い料金をとり、こゝに住む外人と共に高等人種面をして居るが、此頃決して日本人を乘せようとしない。英人が糸を引いてゐるのだと見る人もある。まさかとは思ふが嘘だとも云ひ切れない。

怠業、罷業、より巧妙な無關心的態度は支那人得意の戰術である。彼等は古來消極的戰法、老子の謂ふ不爭の德を以て敵を挫き己を守ることに成功して來た。歷代の朝廷と官僚とから都合よく馴らされた王畿の民、その癖王朝をも官僚をも適當に喰物にした北京人は巧智至柔、下手な喧嘩なんかはしない。ただ國民黨に敎育訓練された青年學生は違つてゐたが、兵となり匪となつて今日そこらに殘つてはゐない。殘つてゐる連中は古くは滿洲八旗、近くは張作霖や國民黨を迎へた慇懃さで日本人を迎へるのである。

北京人はその意味に於て恐るべきしたたかものであるが、この北京人を苦もなく抑えて居る水閥、糞閥といふものがあるから世の中は愉快である。

北京の小路横町を表はす胡同はもと蒙古語の井、惹て井を中心に成立つた聚落の義、元朝北京奠都以來の名だといふことであるが、其起原を語る甜水井、苦水井といふ胡同が今も各地に在り、甜水井即飲用水は賣水的が其權利を握て需要家に配達販賣する。御鄭寧にも糞夫と大書した紺の絆纏を着た糞夫は毎日各戸便器の排泄物を集めて歩く。兩者とも殆ど山東人の獨占、こんな苦役は他省の者に能きない事とされ輕蔑もされて居るが、氣に喰はぬことがあつて怠業をやり出すと豫て鞏固な組合組織、流石の北京人も全く手が出ない。只參つたと詫るだけである。

粗暴、殺伐、忍苦、團結、さうした山東人の特性を表示する爲に近代支那人は人偏に山東と書く新字を發明したものだ。それなら、吝坊でしみつたれで執念深い山西人を表はす新字もあつていゝ譯だがまだ實在はしない。人偏に日本と書く新字は或は案外早くできるかも知れない。といふ譯は、短氣で潔癖で何時も息せき切て馳けまわり、無遠慮に人を踏付けるかと思へば不必要に遠慮し、無意味に物を惠む癖に當然呉れるべきものを呉れない……實に不可解な上に迚も一息では言ひきれぬ人種的特質を此一字で盡すことになると至つて便利だらうからである。

（七月七日黄海にて）

三國志物語

高須芳次郎

(一) 三國志中の三奇三絶

私は、少年時代から支那の『三國志』を座右から離したことがない。その理由の一つは、日本の戰國時代とひとしく、英雄・豪傑の士が一時に輩出して史上未曾有の偉觀を示してゐるからで、いつ見ても『三國志』は興味が多い。

惟ふに、『三國志』を愛讀するものは支那の本場に於いて、一層、著しいかも知れない。金聖嘆が『三國志を讀むの法』を書いたのも、さうした事に原因するやうに思ふ。

彼は、「古今、人才の多いこと、三國より盛んなるはなく、そしてそこに三奇・三絶ともいふべきものがある。孔明は正にその一絶だ。彼こそ古今賢相中の第一奇人である。それから關羽も一絶に加へてよい。彼は、古今名將中の第一奇人だ。また曹操も一絶に加ふべき將軍で、古今奸雄中の第一奇人である」といつた。

これには異論がない。が、その他に劉備、孫權の二人を加へて、五奇としたら、一層妥當、適切なやうに思ふ。曹操と孔明との二傑が特にずば抜けてゐる上からいふと、關羽は、一段落ちる。この關羽と人物の上で同格なのは劉備・孫權の二英雄である。さうすると『三國志』の中心人物は、以上擧げた五人だと見て、差支へがあるまい。今、私は、この五人についての感想を述べようと思ふ。

(二) 孔明と劉備が考へた天下三分の策

何といつても、私が一番好きなのは孔明である。彼は、公正の人であり、至誠の人であり、また智謀の士である。彼の青年時代の抱負は大きかつた。天下の宰相として、理想の政治を布くべく、始終田園の間に起居して、修養にいそしんだ。その主として修めたのは經世實用の學問と兵法、軍學の類ひで二三の心友と一緒にその研究を怠らなかつたのである。

かうして、彼の優れた人となりは、自然、具眼者の知るところとなつた。その一人に蜀の劉備がゐる。

劉備は、漢の景帝の子、中山靖王の後裔だといはれる。然し、その眞僞ははつきりしない。夙く父を喪ひ、母と共に生活したが、非常に貧しく、履を賣つたり、蓆を織つたりして、その日を送つた。彼は全く苦勞人である。

彼の人物は、確かに輪廓の大きいところがあつた。身長七尺五寸、その眼は大きく、長き兩手は、これを垂れると、膝をすぎたといはれる。

彼の長所は、寡言で度量が大きくてよく人に下り、喜怒の色を輕々しく外に現はさなかつたところにある。その天下の志を抱いて、相當の地位に漕ぎつけるまでは、非常な努力と苦心とを重ねた。そして功を急いで、度々、敗戰もしたが、屈しないで、次第に地歩を固め、曹操と對抗するの勢を形造るに至つたのである。

この劉備が孔明を訪うたのは、建安十二年のことである。當時、劉備は、荊州にゐたが、曹操の軍が迫り來るべきを知つて、氣が氣でなく、こゝに、孔明の草蘆を訪うて、蹶起を求めた。その時、孔明は二十七歳、劉備は、四十七歳だつた。而も劉備は、よく孔明に禮意をつくしたので、孔明は、天下三分の策を授け、その三顧の禮に心動いて、劉備のため、全力を注ぐことになつたのである。

天下三分の策！

それは、孔明の達識によつて考へついた名案だつた。その時分、特に頭角を出したのは、曹操・孫權であるから孔明は、孫權と攻守同盟を結んで、曹操に當り、それによつて劉備の進出を計らうとした。『三國志』の內容は、こゝにあるといつてよく、孔明の謀略によつて、劉備は、天下を三分して、その一を保つべき端緖を握つた。

(三) 曹操と孫權との對抗

當時、曹操の威勢は、一番旺んだつた。彼は漢の蕭何の後を受けて宰相となつた曹參の後裔だといはれる。彼は劉備よりも年齢の上で六歳長じ、孫權に對しては二十六歳の年長者だつた。

彼の風采は、存外、振はなかつたやうで、輕いところがあり、威嚴に乏しかつた。相手と語るとき、往々、戲言を發し、歡んで、大きく笑つた際は、頭を卓に沒するばかりに動かし、膳の上の肴を吹きとばすことさへあつた。

ところが、それでゐて、文藝・學術の才を豐かに持ち、趣味も亦廣く、中中の讀書家だつた。その權謀・術數に長けたことは、天性にちかく、そして任俠の風、豪放の態度が彼を特色づけたのである。加ふるに、兵法に精しく武勇の上でも、ずば抜けてゐた。

彼は、劉備が孔明をその草廬に訪うた頃、既に百萬の將兵を持ち、天子を挾んで、諸侯に命令するといふ地位にゐた。その戰爭に長じたことは、黄巾の大軍と袞州に戰つたとき、まだ訓練されない少數の兵を從へて、少しも屈せず、部下を勵まし、賞罰を嚴かにして大勝した一事によつても知られる。

また彼は、糧食を得るために民家を荒らすことを避け、屯田を起し、田官を置き、到るところに米倉を作つた。これがために、運糧の手數を省き、民に迷惑をかけなかつたといはれる。

その奸雄たることは、陳壽が彼を評して「情を矯め算に任ず」といつたので、最も明白であると思ふ。

この大敵たる魏の曹操を向うに廻はすことは、羽翼の十分に伸びてゐない劉備に取つて、少からぬ苦心を要したにちがひない。そこで、孔明の策によつて、赤壁で會戰することとなつた。それについて、孔明は、吳の孫權を自ら說きつけて、こゝに攻守同盟を結んだのである。

孫權は、一番、年少だつたが、進取の氣象に富み、軍略に長け、よく人材を用ゐた。その容貌は奇偉で、紫髯を有し、背が高くて、腰から下が短かつた。彼の祖先は、兵法の名家、孫子だといはれるが、眞僞明かでない。

この孫權と劉備との協力のもとに、赤壁の大戰は開かれた。その際曹操の軍は八十萬に上つたが、吳の軍勢は三萬にすぎない。故に孫權の幕僚は皆色を失つたが、參謀の周瑜・魯肅は固く主戰論を唱へて竊かに勝利を信じた。孫權も亦よく果斷して主戰論を採用し精兵三萬を周瑜に授けたのである。

果然、勝利は吳に歸した。それは、曹操の軍が水戰に馴れぬためと、意驕つた爲めとによるが、吳軍は孔明の智謀を活用して、夜襲に、火攻めに、いづれも勝つた。その時、曹操の軍は大敗して支離・滅裂となり、退路を劉備・孔明らのために絕たれて、ひどく惱んだのである。

この大勝は劉備に幸ひした。彼は孫權の援助を受けて、荊益二州を保ち、蜀の天下を統治して昭烈帝といつた。當時、孔明は、內外政治の局に當つて蜀の勢を張り、天下三分の計を具體化したのである。

(四) 關羽の俤と孔明の晩年

劉備は、濶達で、部下を厚遇したが帝位に卽いてからは、少しく、得意になりすぎ、脫線したこともある。その最も愛重した關羽のために仇を報ずるといつて、吳と戰つて、失敗した如きは、彼の獨斷によつたことで、孔明の遺憾としたところだつた。が、陳壽がいつた如く、「弘毅・寬厚、人を知り、士を待つ」といふ上に於いて、獨得の長所があつた。關羽の如き名將が彼のためによく盡したのも、こゝに心服したからで、關羽には、日本の加藤淸正によく似たところがあつた。その容貌は魁偉で、血色がよく、武勇と至誠との上で、群を拔いてゐた。その『左傳』を愛讀したのは、淸正が『論語』を重んじたのと一脈相通ずるの趣がある。

關羽は、最初、孔明が若輩にかゝはらず、好遇されたのを見て、張飛と共に喜ばなかつたが、後、その大人物たることを知つて、すつかり共鳴した。

惟ふに、孔明の偉大さを殊によく示したのはその晩年である。當時、昭烈帝が卒去して遺孤を託せられると、彼は至誠を以てよく之に仕へ、多難な時局に善處した。若し彼がゐなかつたら蜀の天下は早く亡びたかも知れない。が、彼によつて、兎も角も命脈を延ばし、曹操を相手に祁山に、陳倉に、五丈原によく戰つた。が、その病歿は、蜀の國命を縮めたのである。

嗚呼新秋の風は淋しく五丈原を吹いて、巨星孔明は燈火の滅する如く卒去した。それは彼が五十四の時である。

支那芝居雜觀（四）

石原巖徹

◇象徴と約束及び强調

支那劇の象徴主義は舞臺裝置及び大小道具に於て特に顯著であるが、演出者が果してそれを意識して象徴主義を採つたものかどうかといふ點になると相當疑問がある。穿つた見方をすれば便宜主義から來たのではないかとも考へられる。卽ち目的とする所が、演者の個人的な伎藝（歌、臺詞、所作等）にあるので、それ以外の裝置や道具などに腦を費つたり金をかけたりする必要は無いといふことである。而してそれらのものに對しては極めて象徴的な約束を以て間に合はせる。この意味からすれば支那劇の約束は無論ひと通り心得て置かねばならないが、然し大して重要なことではないとも云へる。その約束の主なるものを擧げると、先づ舞臺面であるが、椅子と卓子が置いてあるだけで室内といふことになる。何も置いてなければ屋外である。室内であつても室外との間には何の區切りもない。室外との出入の場合には手で戸を開けたり、閾をまたいだりする眞似をすれば足る。高い處―垣の上や山など―に上ることは卓子の上に上ることで現はす。椅子を横に倒して置けば牢屋又は洞窟（穴居の場合）といふことになる。支那劇の鞭は、三尺餘りの棒に四個所乃至五個所ふさを附けてあるが、これは多くの場合乘用馬を意味する。これを把手を上にして垂直に持てば、馬を牽いてゐることになる。鞭の紐を手にはめて跨ぐ眞似をすれば馬に乘つたことになる。それを右手で振つてあるけば、馬に乘つて行くことになる。又それを前後に振つて、足を活動させて大きく一人で立廻りをやれば、名馬（從つて荒馬）に乘つて馬が勇むことになり、又本人（乘り手）の武勇を示すことになる。立廻り本位の芝居になると鞭を省略して長い武器（槍又は薙刀）を之に代表する。

旗を以てする約束も色々ある。赤い小旗を持つて舞臺を一廻りすれば雪、黒い小旗なら風、但しこの風は多くの場合陰界の人物（或は神仙）が登場する時の合圖であつて陰風と稱する。波の形を描いた小旗を持つて出れば水中といふことになる。旗に車輪の形を描いたものは車を意味する。

その他、隈取も約束であり、種々の所作も約束ごとが多いのであるが、面白いことにはその反面に寫實的といふか、强調的といふか、間に合せ的でなく特に念入りにやることがある。背景や大小道具は極端に無視する代りに、燒打だの火の玉（幽靈の場合）だのの場合には、空中にパツと火を燃やす仕掛けを用ひる。これは松脂の粉を紙を折つたものに入れて、紙の一方に火をつけ、それを投げ上げるやうに振ると粉に火が移つて、燃えながら空中に飛ぶから焰がすこぶるはでに見える。

前述の通り主演者個人の伎藝に重心が置かれるので、主演者の扮裝は極めて入念に寫實的に（或は强調的に）作られ、その使用する道具も武器だけは入念に凝つたものである。從つて主演者個人が舞臺に出ると、それに依つて觀衆は、充分背景や大小道具が揃つた場合と同じ効果を感得するやうに、習慣づけられてゐるとも見られる。

表情に至ては非常な强調法を用ひ、これには一定の型があるが、型を演者自身の工夫によつて、よりよく活かすといふ點に、藝の巧拙があるわけである。

石佛戀信

—雲崗の石佛に學ぶ—

柳瀨正夢

昨年末畫友とふたり雲崗石佛寺を訪ね、感激いつぱいの三日ふた晩を過したことは既に書いた、が——

大同まで舞ひもどつてやつと頭も纏りかけたとき、あの「華嚴寺」なるものにぶつつかり驚きを二重にしたが、この健かな寶物をみてゐるうちに、御身の藝術的ぬくもりがほごやはらかくぼくの體内にこもつてゐることを意識した。以來張家口でのいらつき、北京では夢にきて寢、遠のけば遠のくほどにぼくを捕へぼくの身うちを馳けめぐり初めた御身。いまきみはぼくの生活の太陽、よき教師。御身の教へは人間の意志をねむらす彌陀のむつごとではなく、潑剌たる人間性の創造にあるのだ。御身によつて、人生の窓を得たぼく。この窓にとりすがつてぼくは世紀のすがたをのぞく。とうとうとして流れこむ「人間」の血潮、體溫としてかんじる美の意識、大まかに圖解する藝術の仕方、そくそくとして生活的にヒユマニテイの世界へおし流す君、ぼくは今や今こそ藝術の中に生れる。

中國の雄大な風景には沒法子（メーファツ）が眠つてゐる。城壁にたつて、長城をみて、運河の岸でそれを感じる。一枚一枚の煉瓦として宗教で目張りされた厖大な大衆力、勞働力といふものを考へなかつたらこの國の風景はナンセンスだと思ふが、でかい雲崗の崖を前にしたとき、不思議にこの前提を忘れてゐるのは何故だらうか。そこが早阿片症狀だといふならぼくは喜んで佛門にだつて下るが、ここには生活的に切り離された冷い權力者の意志といふものが微塵もないではないか。くつたくなく天地間にのびのびと解けこんでゐる風景は、宗教のいでおろぎいとその合目的性とは凡て緣遠い魅力で人々を吸引する。もつと近づいてよくみよう。ここには人間性を抽出したゴチツク藝術にかんじるところの、取りすましたものや、抹香臭いもの、冷嚴たるものがないではないか。

瞬間、千五百年といふ時間的なものはふつ飛んで、そんじよそこらにうろついてゐる村娘とおんなじ感覺でほどよい體溫をつたへるだらう。だがさもしい劣情本能はすでに發散して今や始めて君をきつすいのエロチシズムでたんのうさせるに違ひない。しかもそこにはおほどかな生活の骨があるぜ。人間といふ奴が素朴に縹渺として生きてゐる。情熱が翼のかぎりを空翔けてゐる。

と言つても中には駄作とおぼしき造像だつて數あるが——一般客の多くはこの表通りの愚作の綺羅や虛假威し（こけおど）の中にカメラを焦點し、歡聲をあげてゐる。だがそれはまた朔北のぱさぱさした空氣が何もかも美しく包んで饗宴するせいとも思へる。なほよくみよう。

そこらの暗部や、天井、その端ばしに、廢窟の中、豆佛の中に、模樣や、曼陀羅構成形式の中にまで、ギリシヤからマイヨールまでの系列がわんさと詰つてゐるのがみえよう。それらの無名と覺しき無數の彫工大衆がみんながみんな技術の中に張りきりきつて、逞しい創造的情愛をかたむけてゐるのがみえるではないか。皇城に睡つてゐる煉瓦とは譯が違ふさ。己の手を己の手として伸しきつてゐるのが判つてもらへるね。彫工の生きた時代環境までが浮び上つてくるだらう。全くうらやましいぞ。まさに東洋ルネツサンスの春だ！

さてこの雲崗石佛がガンダラ系であるかグプタ系であるか、そんな學的なことはまだまだぼくの興味をくすぐらない。ぼくらがこの北魏藝術の最高峯に到るたのしみは、そこから八方に流れてゐる燉煌や、龍門や、晋祠鎭や、響堂山、鞏縣、歷城の登路、また最近發見されて發掘に着手したときく下花園の處女口までが見下せるからだと言へよう。そこにはそれぞれの中國文化史へ下る谿々だつてあらうし、ギリシヤ、中央亞細亞、印度を經て朝鮮飛鳥奈良にいたる重疊連綿たる縱走路や、その間天を摩する巨嶽の姿だつてみえるに違ひない。現代文化史に繫がる諸支脈、ギリシヤ靈峯の征把は現代藝術の俯瞰を擅にできようし、現在の混亂した形式主義の道を正しき傳統の上にひきなほすことだつてできる。

ぼくはまづまづ、雲崗の峰に出るんだ。然るのちそれらの尾根をつたつて、また好める溪谷をもさぐりたい。

ぼくはいま希望にふくらみ實踐にあせりぎみでさへある。だのにこの現身の山麓にたたずんだ儘の圖太（ずぶと）い逆な落付き方はどこからくるといふのか。ともあれ、ぼくは北京まできた。想ひは日毎八達嶺を越えてゆきかよふ。かの崖、小麥色の肌地がちらつく。（七・一七）

◇

北支那の各地にある石窟寺院は、その規模も數量も印度西域のものに優るとも劣らない。而もその歴史的・藝術的價値に至つては全くユニークなものだ。主要なものを擧げると、晋北大同の雲崗石窟、河南洛陽の龍門石窟、河北・河南の省境の響堂山石窟、山西太原の天龍山石窟等がある。その中でも雲崗石窟は最も古く、而も規模が大きい。それは印度のアヂャンター窟院、アフガンのバーミヤン等の遺蹟、瓜哇のボロブドゥル寺院、印度支那のアンコル・ヴアット寺にも匹敵すべき佛教藝術の一大遺蹟である。印度その他の大遺蹟はそれぞれ各國の政府が援助して學術的調査が行はれ、巨大な報告書が完成されてゐる。北支那の石窟については未だその計畫すら耳にしない。これは歴史を誇る東洋文化のため頗る遺憾。こゝに鑑るところあつて、東方文化研究所（京都帝國大學內）はさきに昭和十一年春、抗日空氣の激化の渦中に響堂山石窟及び龍門石窟の一部の調査を敢行した。進んで雲崗の大石窟調査を計畫したが、事變で中絶の已むなきに至り、事態の稍〻鎭靜するを待つて、昭和十三年新たに外務省、內蒙古派遣軍、蒙疆政府の支持のもとに大調査を開始した。嘗ての調査計畫は、國民政府治下の對日空氣を考慮して小規模のものであつたが、事變後一變の東亞新事態の下に徹底的精密大調査が可能となつたわけだ。かねて北支蒙疆の文化發展に多大な關心を寄せてゐる華北交通會社は、同調査の學術的意義を認め、前記諸機關とともに東方文化研究所の石窟調査を支援し、十二分の成果を收めて貰ひ度いと力瘤を入れてゐる。世上單に觀光の對象としてのみ考へられて來た雲崗石窟が、考古學的に歴史的に、そしてまた美術的に世界に宣傳せられる日の期待出來るやうになつたことは興亞文化の顯揚としてその意義は高く評價されるべきものであらう。

◇

事變後の素晴しい邦人の北支進出に伴ひ子弟收容の學校施設が激增した。文化日本の力强い投影と云ふべし。

▽小學校

	學校數	學級數	學童數
事變直前	二三	一四九	五、四〇一
本年四月	三九	三五〇	一三、二〇五
增加數	一六	二〇一	七、八〇四

▽中等學校

	學校數	學級數	生徒數
事變直前	六	五七	二、三七八
本年四月	一一	八二	三、〇八九
增加數	五	二五	七一一

▽青年學校

	學校數	學級數	生徒數
事變直前	二	九	一六七
本年四月	三	一六	五四九
增加數	一	七	三八二

右の表に見るやうに北支各領事館管下の本邦人子弟教育施設は最前線の開封及び新鄕の二校を加へて現在の小學校三十九校、青年學校三校、中等學校十一校を數へ、二三の例外を除く外、すべて各地居留民團及居留民會の設立經營にかゝるものである。昨年度新設したのは小學校だけで、豐臺、保定、德州、石家莊、太原、宣化、大同、厚和、集寧、包頭及び北京西城の十一校で、中等學校は青島學院高女一校であつたが、本年は小學校において北京の二分校を各獨立校としたのを始め、天津第三、陽泉、徐州の三校を開設し、最前線の開封、新鄕の二校を加へて計五校、青年學校北京一校、中等學校は北京中學、北京高女、天津中學及び濟南高女の四校を開設してゐる。

◇

事變前、北京も東單牌樓の前あたりで日本人に逢ふと、それが行きずりの人であらうとも、ヤア暫くと異鄕で同窓の友にめぐり會つたやうな喜びが湧いたもの。それが此頃では東單牌樓を行き交ふ人波は大抵が日本人である。奇麗な人が多くなつたねと云ふのが近頃若い人の王府井（北京の銀座）を歩きながらの挨拶のやうになつた。さて、どれだけ日本女性は進出したか數字に當つて見よう。大使館最近の調査によると、北京の職業婦人數は八百十九名それに藝酌婦、仲居、女給等を加へると實に二千百餘名。內譯は、タイピスト二二二名、事務員五六〇名、藝妓三八五名、酌婦二三二名、舞子四四名、仲居一三一名、女給五〇五名、鮮妓三〇名となつてゐる。それに單身赴任の人々が、新しき秩序の發展に伴ひ大陸を活動の本據とする心組みから家族を呼び寄せてゐるのだから、大陸の「母」も目立つて殖ゑて來た。

◇

大同は石炭の埋藏量百億瓩と云はれたが、新調査で四百億瓩は間違ひないと、力强い數字の訂正がなされた。重要資源の豐富な埋藏は聞くに樂しい話ではあるが、運び出されねば寶の持ち腐れ。卽ち大同炭對日輸出ルートの完

成が急がれるわけ、目標は一ケ年二百萬瓩。かねて運炭線の擴充を急いでゐた華北交通會社は京包線砂城附近から永定河に沿つて下り豐臺附近で京山線と結ぶ新線建設に決定、測量設計その他具體的計畫作成に着手した。工事は明春から開始。かくて塘沽の築港並に京山線の複線工事の進捗と相俟つて昭和十七年或は十八年には大同炭輸出ルートが完成する。

◇

農業國支那の主要農業地域は、地質氣候並に植物分布の上から二つに分けることが出來る。北部支那農業地域と中部及び南部支那農業地域とである。北支農業地域が一般に地味肥沃と云はれる所以は、黄土の神祕に由來するものだ。支那の黄土は、現在の學說によれば、空氣の產物で、冬の季節風によつて中央亞細亞から幾千年の間に運ばれた微細な塵埃から出來たものだ。黄土の各層は風のまにまに時と共に新しい層を被り、しかも被つた層の中には植物性及び動物性の有機物が豐富に含まれてゐて、時と共に腐蝕して行く。だが黄土は早春播種の際に降雨を必要とする。この時期に降雨がないと耕された地表は屢々風のために吹き飛ばされ、種子は露出して乾燥してしまふ。黄土は植物の根の遺物であるから線狀の多數の小孔があつて、雨が降ると土壤と地下水の間に交流が行はれ地下水は毛細管現象の法則によつて上に引上げられて植物の根に濕氣と鑛物鹽を供給する。そこで黄土の異常な肥沃性が發揮される爲には植物の發育期に充分な濕氣が必要だ。雨が少いか、時間的配置が不適當だと肥沃性の神祕は失はれてしまふ。しかるに北支の播種期たる四、五月には雨期の關係から雨量が少い。これがため、往々にして北支に特有な大旱魃の慘を見る。しかるに北支の全耕地面積中に於て人工灌漑の行はれてゐるところは全體の一割に過ぎず、一方地勢の上から河川灌漑の困難な北支は自己の肥沃な土壤を徒に自然の雨期と雨量の弄ぶ儘に委ねてゐた。先頃北支農業改良のために興亞院文化部から派遣せられた寺田博士一行の二ケ月に亙る北支蒙疆地域の調査旅行隊の本月中旬歸燕の結果報告によると、井水による人工灌漑を施すのが北支農業の改良發展の鍵鑰であるとされた。井水灌漑は北支においては僅に京漢線沿線の定縣方面で行はれてゐるが、これを北支に普及すれば、從來旱魃の原因となつた長い日照期と高い溫度の自然條件が逆に有利に利用せられ本年の如く「播種も終へて黄土は既に幾度か耕やされた」が、徒らに天を仰いで降雨を待つ北支農民の嘆きも取除かれる譯である。

◇

降りつゞく雨と燒けつく暑さで、北支蒙疆の各地は惡疫流行の危險信號を傳へてゐる。早速、華北交通會社では近代醫學による防疫陣を張つた。北京鐵道沿線各地にコレラ防疫班を設置、本社の保健課が臨時コレラ防疫本部、北京、天津、張家口、濟南、青島、石家莊、太原の各鐵路醫院に防疫班を置き、豫防注射、豫防處置、列車乘降客の望診、列車の消毒、列車内の乘込檢疫、患者、容疑者の隔離など萬全を期してゐる。かうして一般旅客も大陸旅行に惡疫の不安なく、沿線住民も惡疫を持ち込まれる心配がない次第。

◇

北京近代科學圖書館は、外務省對支文化事業費で、昭和十一年十二月設立せられた。綏遠事件勃發の殺氣立つた空氣の最中で、開館を前に支那人の利用者も殆どあるまいと心配されたが、開いて見ると同十二月三百五十人、一月四百人、四月には二千人と利用者は確實に增加した。事變後は北京の多數の支那學生が地方に離散したに拘らず八月に八百、九月は一千と盛り返し、最近は一日平均千五六百の利用者があり、西城分館、北城圖書閲覽室を設置するに至つた。世の支那通と云はれる人々が、中國インテリは無言の慴伏の相貌の底に日本に對して白い眼を光らしてゐると指摘するが果してどうか。それも一面の眞實ではあらうが、近代科學圖書館の閲覽者の激增と云ひ、日支交換教授の新聞廣告に百五十の申込者が殺到するすさまじさといひ、其處に中國知識人の日本文化の眞を探求する新しい出發の雰圍氣を認むべきだ。問題は彼等の再出發を生かし育てることが出來るかどうかに懸つてゐる。その場稼ぎの「一旗組」根性、間に合はせの日本語學校の不見識は如何。新秩序建設の不撓の心組み、自負と自重が肝要だ。外國人の文化活動、例へばカソリックの三百年、短きも六十年をかけて支那各地に產業、教育、醫療施設を與へた根强さ、中にもクリスチイが奉天における日清日露兩戰役前後に亙る三十年の根强い苦鬪に學ぶべきところ多々ありと云ふべしである。

◇

北京こよみ 九月

十三日（舊八月一日）

▽竈君廟廟會。崇文門外花兒市にあり、開廟三日間。三日目は竈王の誕生日と謂はれ、飯館の料理人や、茶館の從事員など多く詣る。民家でも御馳走を作つて、竈に供へる者がある。

十五日（舊八月三日）

▽豐臺廟廟會。豐臺の西にあり、花神を祀つてゐる。開廟一日。北京の飲食店業者が燒香に詣る。

*　*

〔新曆九月前半の雜事〕

○立秋。楸樹の葉を頭に戴き、蓮根を食ひ、伏薑を乾す。茉莉や梔子蘭、芙蓉の花を玩賞する。又鷄頭、桂、葵、秋海棠、玉簪の花等各々艷を競ふ。

果物に棗、柘榴、梨、葡萄等市場に上る。閑人の蟋蟀を樂しみ、賭博に供することは引續き秋に及ぶ。その他秋の蟲を飼養する者多し、その飼養器具の精巧さは前號に述べた。子供等は蜻蛉釣りに興ずる。蟹、鱖など飯館の膳に上る。

〔新曆九月後半の雜事〕

○仲秋節。二十五日より二十七日迄、（舊曆八月十三日至十五日）民家では中庭に香堂を設けて月亮馬兒を立てて祀る。月亮馬兒は上に太陰星君或は玉皇大帝・風雨雷雨、菩薩諸神の像を描き下には杵を持つた兎のゐる月の宮を描いた刷繪紙を高粱穀に貼つて支へたもの。卓上には、月餅（果物や砂糖で作つた餡を入れた菓子）や果物などお供へする。婦女子は團圓餅（メリケン粉で作つた蒸し團子）を供へて禮拜する。但し男子は拜まぬので男不拜月と云つて、これは十二月の竈祭りを女不祭竈と云ふのに對してゐる。明月中天に昇り拜月が濟んだら月亮馬兒を焚いて供物をさげ、一家團欒して月見の宴をひらく。それで仲秋節を團圓節とも云ふ。この日一家の者互に祝うて林檎（特に團圓果と云ふ）を喰べるので仲秋節前になると市場林檎値上りの現象を呈する。

倘仲秋節は一年の三大節季（端午と大晦日と）に當り決算日であるから商家などでは大事な時。

○兎兒爺。仲秋節前になると街頭あちこちに兎兒爺と云ふ兎に因んだ玩具を賣出す。これは泥製極彩色で、兎は武神となつて衣冠を正し杵を持つて麒麟や虎に跨つたり、或は裸で蓮の葉にあぐらをかいたり色々なのがある。泥製の林檎や梨のお供へ物もちやんと出來てゐる。これは子供のままごと祭に使はれるので北京獨特の玩具である。

○月餅は市中到る處に賣つてゐるが、前門外の致美齊のが北京第一と云ふ。これも隨分精巧な兎に因んだ細工をしたのがあつて西洋ならばクリスマスケーキのやうなものであらうか。一般には油つこく甘過ぎて食ふに適しない。

果物が盛に出る頃で、梨、青柿、柘榴、葡萄、棗等臨時の夜店にも上る。

立秋後は羊肉の季節で烤羊肉（ジンギスカン料理）涮羊肉（羊肉の水炊き）が美味くなるので、飯館が繁昌する。

蟹料理では前門外の正陽樓が有名。

○裝身用の花。七月初め頃から市場に上る茉莉花、玉蘭は引續いて出る。晩香玉も秋半過迄見受けられる。何れも香氣の高い花で前二者は裝身用として北京娘の愛用する花。後者は室內を飾るに薰じて好適の花。

昭和十四年八月十五日印刷納本
昭和十四年九月一日發行

九月號（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局資料課 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 君島潔
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房 振替東京六四二二三番 電話九段(33)一四一五番 三三四四番

一册定價 三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分 金三圓六十錢

廣告取扱 大阪市西區京町堀上通一丁目二五 一手取扱所 一新社 電話土佐堀九三九

北支軍檢閲濟

東京市麴町區三番町
振替東京六四二二三
電話九段(33)三一四一五
三三四四
圖書目錄贈呈

阿部知二著

冬の宿

第一書房

戰時體制版

東京市麴町區三番町
振替東京六四二二三
電話九段(33)三一四一五
三三四四

各冊 78Sen

杉浦重剛謹撰

選集 倫理御進講草案

四六判四五〇頁
定價七十八錢
諸家感想集贈呈

本書は畏れ多くも　今上陛下東宮に在しませし時、杉浦先生が前後七ケ年に亙り御進講申し上げた御草案集であり、日本精神の眞髓を說いた不朽の貴重書!!

下村　宏氏　「先づ國力を充實せしめて而して正義の道を行くべきものなり」これ杉浦先生の國運のよりて進むべき道を說かれし骨子であり、さらに世界の大勢は「歐米のアーリア人に對する東洋の非アーリア人の爭抗となるべし」と道破して外國人の決して忘るべからざる旨を力說されてゐる。非常時局に直面して國民は先生の言を再三熟讀すべきである。

馬場恒吾氏　杉浦重剛は倫理御進講の中に三種の神器と五ケ條御誓文と教育勅語を以て治世の大本としてゐる。五ケ條御誓文は今から七十餘年前に定められたるものであるが、著者の解說と共に讀めば今尙ひしひしと胸にこたへるものがある。名文は老いず、眞理は永久に若い。われわれはこの御誓文に新たに學ばねばならぬものがあると思ふ。

日本二

大川周明著

建國二千六百年を迎へて我が國體の莊嚴偉烈を世界に宣言發揚せる簡明直截平易なる劃期的日本史出づ!!　躍進日本の理想と指導原理とを見よ!!

▲歴史を繙けば、我々日本人は日本人として如何に生きねばならぬ乎の問題は自ら解決する筈である。然るに過去二十年

〔新暦九月前半の雜事〕

○立秋。楸樹の葉を頭に戴き、蓮根を食ひ、伏薑を乾す。茉莉や梔子蘭、芙蓉の花を玩賞する。又鷄頭、桂、葵、秋海棠、玉簪の花等各々艶を競ふ。

果物に棗、柘榴、梨、葡萄等市場に

明月中天に昇り拜月が濟んだら月亮馬兒を焚いて供物をさげ、一家團欒して月見の宴をひらく。それで仲秋節を團圓節とも云ふ。この日一家の者互に祝うて林檎（特に團圓果と云ふ）を喰べるので仲秋節前になると市場林檎値上りの現象を呈する。

前門外の致美齋のが北京第一と云ふ。これも隨分精巧な兎に因んだ細工をしたのがあつて西洋ならばクリスマスケーキのやうなものであらうか。一般には油つこく甘過ぎて食ふに適しない。

果物が盛に出る頃で、梨、青柿、柘

一冊定價 三十錢（郵送料一錢五厘）
一ケ年分 金三圓六十錢
廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所 一新社
電話土佐堀九三九
北支軍檢閲濟

朝鮮・滿洲・支那を語つて新しい東亞の將來を說き、慌しい世界の動きを打診して新日本の進路を指針する!! 一讀忽ち胸に落ち、頭に殘る、時局隨筆!! 時下必讀の國民讀本!!

下村博士の話題の豐富なることは既に定評あるところ。その高朗な識見に裏づけられた豐潤な常識と明徹な時代への洞察は、時局を縱橫に截斷して輕妙洒脫、自らその中に諧謔を生じて而かも深遠なる示唆に富んでゐる。本書は最近の博士の評論、隨筆、感想を網羅せるもの。博士が先頃觀察した朝鮮、滿洲、支那に筆を起して、民族、移民、文化工作等の諸問題を論じて新しき東亞論を樹立し、更に政治、外交、經濟、敎育等の各分野に亙つて廣く世界の現狀を打診し、新日本の進路を指針してゐる。今や時局は益々複雜を加へ、その正しき認識把握こそ刻下の急務たるときこれこそ凡ゆる階級の人々に勸め得る生きた時局解說であり、何人のためにもまさに好個の社會讀本である。

下村博士著作集

生活改善
物の糧心の糧
東亞の理想
動く日本
人口一億

各冊價一圓八十錢

税の叢書

大藏省國稅課長 田中豐監修

大藏省主稅局事務官 片岡政一著

源泉控除稅

稅引利廻の羅針盤!!銀行會社窓口事務の寶典專門家の虎の卷を公開した詳細懇切な解說書源泉課稅の唯一のテキストだ!!

菊判三六五頁 價二圓五十錢

大阪稅務監督局 松本寅俊著

個人所得稅

前大藏省稅務檢査官 志達定太郎著

會社所得稅及營業收益稅

各冊定價二圓五十錢

山とカメラ

諸江一郎著

長濱慶三序 栗原信裝幀

五六判二八七頁 挿圖寫眞百枚 別刷口繪五枚 定價二圓

カメラが綴る崇高雄大な山岳の詩!!專門寫眞家が捉へた山岳の全姿態と全表情!!而してその撮影法を登高の經路に從つて懇切に說いた最も嶄新な山岳寫眞の祕術公開です!!

山岳撮影の使命、山岳撮影の正しい態度、山岳寫眞の內容要素、登山と撮影對象を細述し、山岳寫眞に必要な技術的諸條件と寫眞の表現法に就いて極めて平明懇切に解說する。また寫眞的題材の豐かな山岳へのコースを、小型カメラの有するレンズの焦點距離を考慮に入れて記載し、カメラ・アマチュアのためによき指針となしてゐる。更に卷中百頁に亙る山岳寫眞は、その技術的解說と相俟つて、故に山岳の詩を遺憾なく傳へ、初歩者の參考に資してゐる。

吉田絃二郎著

山の子海の子

四六判三〇〇頁 定價八十五錢

山と海の子供達を描いた童話集で夏休みのお子樣方の好讀物です。

愛馬いづこ 價八十五錢

早稻田大學敎授 伊藤康安著

禪と社會

著者は禪庵の人にしてまた書齋の人!!其濶達自在な筆致は禪と社會を語つて輕妙洒脫!!肩を凝さず人生の眞義を悟らしむ

あらゆる苦しみや欲望や迷ひからいつのまにか人の心を解き放し、人生と社會を眺める新しい眼を開いて次々と心の夜明けを感じさせる佛敎隨筆!!また、平易に說かれた佛敎槪論!!新鮮にして爽快なる味ひは緣蔭を渡る涼風宛らだ!!

四六判二三七頁 定價一圓三十錢

大阪朝日特派員 根津菊治郎著

ペンの從軍

轉戰數百里、從軍記者が書き下ろした初めての生々しい戰線の記錄!!好評忽ち再版成る!!

四六判三五〇頁 定價一圓三十錢

二千六百年史

聞、我が日本の指導精神は餘りにも歐米依存に走り過ぎて、遂ひには國體精神の本義に就いて深く反省するのいとまなき有樣であつたのである。顧れば幕末維新の燃ゆる精神は頼山陽の『日本外史』によつて鼓舞され、日清日露の熱血的精神は、竹越三叉の『二千五百年史』によつて湧き立てられたのである。

★我等は必ず歷史に依つて日本的生命を支配する法則を把握し、そのなかに新しい日本建設の原理を求めなければならぬ。今や新東亞建設の輝かしい偉業を前にして、國史を顧るの要、今日の如く切實なるはない。この時に當つて、新東亞の先覺者大川博士の全靈全身の結晶たるこの劃期的な『日本二千六百年史』を得たことは、正に全國民の久しき渴望を滿すものと云はなければならない。

★而もこの書は年代を追うて記述された單なる歷史ではない。國史を借りて大川博士の烈々たる國體精神の迸り出たものと云ふべく、その眞摯熱血の文字は、我々を日本人たるの偉大な誇りと自覺に導かずには措かない。蓋國このかた不窮の發展と充實をもつて今日に及んでゐる日本の生命と國體の莊嚴は、この書この人にして始めて鮮明され得たと云ひ得る。

初刷三萬部賣切れ
只今第二刷發賣中!!

四六判四六〇頁　定價七十八錢 書店にあり

パアルバック作
ノーベル賞名作
新居格譯

大地

新装改版

第一部
第二部
第三部
大好評 六十萬部突破
各冊七十八錢
全三巻出揃ひ

『大地』こそ支那を知る唯一書であると現地でも銃後でも益々白熱的に讀まれつつある。而も讀む人の凡てが激賞する。

『大地』の如き傑作は百年に一度位しか現はれない巨篇である。

今や大陸政策が我等の最も喜益なる思索と行動の中心たるとき何人も　この『大地』を讀んで眞の支那を理解し、その覺悟をば決定すべきである。凡そ文字の讀める人間なら、あらゆる階級の人々を感激させずには措かない名作!!

德富蘇峰氏 第一巻は、北支の百姓王龍一代記にして、第二巻は其子王大、王二、王虎三人の代に入り、第三巻は其孫王仁、王淵、王猛等の時代に入り、云はば王氏三代の榮枯、推移を、支那現代の變遷を背景として、描き出したるものである。固より王氏三代の男性に配して、それぞれの女性がある。中にも王龍の正妻「阿蘭」の如きは、その中にも傑出したる出來榮だ。

蠟山政道氏 『大地』より『息子達』を經て、やがて『分裂せる家』まで展開する一連の社會悲劇は、確かに一つの社會法則である。これを抽象的な批判的な認識世界の出來事として見れば、何の不思議もない必然の世界の現象に過ぎない。しかし、これを我々の實生活の問題として、行爲と實踐の世界に持ち來す時、我々はこれを解決を要する課題として受けとらねばならぬ。之を一箇の藝術品として鑑賞するの餘裕も欲しいが、同時に自己の實生活の藝術として自らその悲劇の含む課題の實踐的解決を企らねばならぬ。

Munaval

-NISSEN-

寄生性・瘙痒性 皮膚病治療劑

ムナバール「日染」

純國産新發賣

ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徵】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

【適應症】

疥癬・頑癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性皮膚諸疾患。

【包裝】

一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

NISSEN

製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元 株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

第一書房

戰時體制版

東京市麹町區三番町
振替東京六四二三五
電話九段(33)二二四一・二四四一

各冊 78Sen

杉浦重剛謹撰

選集

倫理御進講草案

四六判四五〇頁
定價七十八錢
諸家感想集贈呈

本書は畏れ多くも　今上陛下東宮に在しませし時、杉浦先生が前後七ケ年に亙り御進講申し上げた御草案集であり、日本精神の眞髓を說いた不朽の貴重書!!

下村　宏氏　「先づ國力を充實せしめて而して正義の道を行くべきものなり」これ杉浦先生の國運のよりて進むべき道を說かれし骨子であり、さらに世界の大勢は「歐米のアーリア人に對する東洋の非アーリア人の爭抗となるべし」と道破して外國人の決して忘るべからざる旨を力說されてゐる。非常時局に直面して國民は先生の言を再三熟讀すべきである。

馬場恒吾氏　杉浦重剛は倫理御進講の中に三種の神器と五ケ條御誓文と教育勅語を以て治世の大本としてゐる。五ケ條御誓文は今から七十餘年前に定められたるものであるが、著者の解說と共に讀めば今尙ひしひしと胸にこたへるものがある。名文は老いず、眞理は永久に若い。われわれはこの御誓文に新たに學ばねばならぬものがあると思ふ。

日本二

大川周明著

建國二千六百年を迎へて我が國體の莊嚴偉烈を世界に宣言發揚せる簡明直截平易なる劃期的日本史出づ!!　躍進日本の理想と指導原理とを見よ!!

★歷史を繙けば、我々日本人は日本人として如何に生きねばならぬ乎の問題は自ら解決する筈である。然るに過去二十年間、我が日本の指導精神は餘りに歐米依存に走り過ぎて、

史年百六千二

遂ひには國體精神の本義に就いて深く反省するのいとまなき有様であつたのである。顧れば幕末維新の燃ゆる精神は頼山陽の『日本外史』によつて鼓舞され、日清日露の熱血的精神は、竹越三叉の『二千五百年史』によつて湧き立てられたのである。

★我等は必ず歷史に依つて日本的生命を支配する法則を把握し、そのなかに新しい日本建設の原理を求めなければならぬ。今や新東亞建設の輝かしい偉業を前にして、國史を顧るの要、今日の如く切實なるはない。この時に當つて、新東亞の先覺者大川博士の全靈全身の結晶たるこの劃期的な『日本二千六百年史』を得たことは、正に全國民の久しき渇望を癒すものと云はなければならない。

★而もこの書は年代を追うて記録された單なる歷史ではない。國史を借りて大川博士の烈々たる國體精神の迸り出たものと云ふべく、その眞摯熱血の文字は、我々を日本人たるの偉大な誇りと自覺に導かずには措かない。肇國このかた不斷の發展と充實をもつて今日に及んでゐる日本の生命と國體の莊嚴は、この書この人にして始めて鮮明され得たと云ひ得る。

初刷三萬部賣切れ

只今第二刷發賣中!!

四六判四六〇頁　定價七十八錢　書店にあり

パアルバック作
新居格譯
ノーベル賞名作

第一部　大好評
第二部　六十萬
第三部　部突破

大地

新裝改版

全三卷出揃ひ　各册七十八錢

『大地』こそ支那を知る唯一書であると現地でも銃後でも益々白熱的に讀まれつつある。而も讀む人の凡てが激賞する。

『大地』の如き傑作は百年に一度位しか現はれない巨篇である。

今や大陸政策が我等の最も緊要なる關心と行動の中心たるとき何人も この『大地』を讀んで眞の支那を理解し、その覺悟を決定すべきである。凡そ文字の讀める人間なら、あらゆる階級の人々を感激させずには措かない名作!!

德富蘇峰氏 第一卷は、北支の百姓王龍一代記にして、第二卷は其子王大、王二、王虎三人の代に入り、第三卷は其孫王仁、王淵、王猛等の時代に入り、云はば王氏三代の榮枯、推移を、支那現代の變遷を背景として、描き出したるものである。固より王氏三代の男性に配して、それぞれの女性がある。中にも王龍の正妻「阿蘭」の如きは、その中にも傑出したる出來榮だ。

蠟山政道氏 『大地』より『息子達』を經て、やがて『分裂せる家』まで展開する一連の社會悲劇は、確かに一つの社會法則である。これを抽象的な批判的な認識世界の出來事として見れば、何の不思議もない必然の世界の現象に過ぎない。しかし、これを我々の實生活の問題として、行爲と實踐の世界に持ち來す時、我々はこれを解決を要する課題として受けとらねばならぬ。之を一個の藝術品として鑑賞するの餘裕も欲しいが、同時に自己の實生活の藝術として自らその悲劇の含む課題の實踐的解決を企らねばならぬ。

-EN-

ムナバール

寄生性・瘙痒性　皮膚病治療劑

「日淤」

商店
丁目

補血
強壯

武田發賣

ムダがなくて、胃腸にもよい
アミノ酸・ビタミンB綜合劑

ポリタミン

療養患者の体力
恢復には本劑が一番

療養患者、殊に衰弱した人にとつて最も大切な榮養素は蛋白質（肉や卵の成分）ですが、この蛋白質もそのまゝでは榮養にならず必ず胃腸で消化をうけてアミノ酸に變化してからでないと吸收されません。從つて胃腸の弱つた人には蛋白質よりもその消化体アミノ酸を用ひる方が一層効果的であります。

ポリタミンは牛乳蛋白を豫め消化したアミノ酸を主成分とし、これにビタミンBを加へたものですから、ムダなく榮養となつて体重を増し、且つアミノ酸獨特の細胞賦活作用によつて抵抗力をつよめ、或は食慾をすゝめ、或はホルモンを構成し、相俟つて健康の恢復を促します。

四百五十醫學博士の推奬する強壯劑

150 Gm.
POLYTAMIN
A EUTROPHIC OF AMINO ACIDS
This is an aromatic and palatable liquid of amino acids and vitamin B. The amino acids are obtained by fermentation of milk protein in the same way as it is fermented in the body.
That the preparation is absorbable even by the invalid alimental organs at general atrophy to make blood and flesh and to elevate metabolic action and the function of hormones, is the established merit of it as an outstanding eutrophic in the light of modern dietetic science.
MANUFACTURED BY
DAIGO SEIYAKU CO., LTD.
SOLE AGENT
CH. TAKEDA & CO., LTD.
OSAKA

甘美味の液劑

小瓶 一圓五五錢
中瓶 二圓五〇錢
大瓶 四圓五〇錢
各地藥店にあり

發賣元 株式會社 武田長兵衛商店 大阪市道修町
製造元 武田榮養化學株式會社 大阪市堀上通